

2012年 前期

教員コメント

時間割番号	1103	科目名	経済の仕組みとビジネス
-------	------	-----	-------------

①授業計画の達成度について

設問4（シラバスの効用）に対して、「かなり役立った」と「ある程度役立った」を合計すると75.5%あり、おおむね成功していると思われる。

設問5（難易度）に対して、「かなり難しい」と「やや難しい」を合計すると79%もあるが、単位取得率がかなり高い。したがって、難しい内容をよく理解した学生を評価したい。

今後も授業の内容の水準を落とさずに、しかも、分かりやすく授業をしたい。

②授業の進め方について

設問6（分かりやすさ）に対して、「かなり分かりやすい」と「やや分かりやすい」を合計すると75.4%あるが、この割合に満足せず引き続き分かりやすさの向上に努めたい。

設問8（理解度の確認）、設問9（授業時間以外の学修活動の指導）のいずれも、「進めている」と「指導している」がそれぞれ80%を超えており、ミニテストの実施と、その解答例の配布の意義をよく理解してくれている、と解釈している。設問14（授業満足度）も「満足している」の合計が77.7%あり、引き続き努力したい。

③アンケート全体を通しての自己評価、及び、今後の授業改善計画について

難しい内容をよく理解して単位を修得している学生諸君を高く評価しているが、気になるのは、設問3（授業時間以外の学修活動）に対して、「殆ど行っていない」と「全く行っていない」の合計が25%もあることである。教師側も、言語を明瞭に分かりやすく授業を改善していくから、学生諸君の自習活動を今後一層期待したい。

2012年 前期

教員コメント

時間割番号	1108	科目名	財務諸表論 I
-------	------	-----	---------

①授業計画の達成度について

ある程度予想通りではあるが、前年度より丁寧に解説を試みた結果、多少ゆっくりした進度であり、学生の理解度は結果的に高い気がする。

②授業の進め方について

基本的には授業前にレジュメを配布し、それに基づいて授業を行っている。レジュメの内容を補足するために、板書も行っている。

③アンケート全体を通しての自己評価、及び、今後の授業改善計画について

概ね予想通りのアンケート結果だったので、基本的には従来の路線を踏襲する。前期は進度の関係でできなかったミニテストの回数も増やして、学生の理解度をさらに高められるようにする。

2012年 前期

教員コメント

時間割番号	1113	科目名	プログラミング入門
-------	------	-----	-----------

①授業計画の達成度について

本授業の目的は、これから大学4年間に情報学部生として学ぶための導入と位置づけ、広く必要な知識と実技を合わせて学ぶ事としている。その目的のもとシラバス通りに授業を進行させた。また、シラバスの理解度としては6.3%が「あまり役に立たなかった」と回答しているが、ほとんどの学生が理解しているものといえる。1年生対象科目として初めての大学の授業なので学生が戸惑うことも多くあると思われる。その結果としてアンケートでは授業の難易度として82.3%の学生が「かなり難しい」「やや難しい」と回答している。

②授業の進め方について

授業のわかりやすさはアンケートの結果から82.3%の学生が「かなり分かりやすい」「やや分かりやすい」と答えており問題はなかったと思われる。また、授業理解度を確認しながら進めているかの間に90.9%の学生が「かなり進めている」「ある程度進めている」と回答している。授業環境については、教員の話し方・聞き取りやすさも94.2%の学生が問題なしと回答し、私語に対しても26.5%が「やや多い」と回答したのみで他の学生は問題なしと回答している。

③アンケート全体を通しての自己評価、及び、今後の授業改善計画について

授業の難易度としては難しいと回答した学生が82.3%いたが、授業が分かりやすいと回答した学生も82.3%と同値を示している点、アンケートから91.2%の学生が授業に満足している点より、学生は授業内容を難しいと感じつつも理解したものと考えて良いと考える。この結果、本授業の進め方は妥当であったといえる。また、昨年度と比較しても授業に満足している学生が増えたことより、授業が学生に受け入れられるように改善ができたといえる。しかし、17.7%の学生が授業内容を理解していない事もわかり、小テストなどを実施し、学力面で授業についていけない学生には授業外での課題を出すなどさらなる改善を進めていく。

2012年 前期

教員コメント

時間割番号	1114	科目名	基礎デッサン
-------	------	-----	--------

①授業計画の達成度について

第1週目、授業オリエンテーションにシラバスの内容を説明している。概ね、役に立ったと回答してくれている。しかしながら、このデッサンの授業は、学生のデッサンの進み方が個々違う。そのため、授業計画に必ずしも計画どおりに進めません。シラバスに記載されたように、この授業は個人指導であるからです。この授業に関しましては、達成度は概ね、良好と考えている。

②授業の進め方について

声や言葉、説明は概ね分かりやすい、聞き取りやすいとの回答である。個人指導のため、学生とコミュニケーションを取りながら進めている。この授業では、少人数であり、個人個人、よくコミュニケーションが取れ、デッサンの完成度が高かった。コミュニケーション型の授業ですから理解度を確認しながら、デッサンの進み具合を見ながら進めている。この授業の学生の満足度は概ね、良好ですが、今後もより満足度を高める努力が必要である。

③アンケート全体を通しての自己評価、及び、今後の授業改善計画について

学生との対話形式の授業であるが、対話が出来ない学生がいる。このような学生といかに対話をし、デッサンを理解してもらうかが今後の課題である。デッサンという以前に、絵が苦手という学生が目立つ。絵を描くことを、放棄した学生をいかにデッサンをしてもらえるかが大きな問題で、課題である。より解りやすい授業にしたい。

2012年 前期

教員コメント

時間割番号	1157	科目名	経営情報システム論 I (経営情報論)
-------	------	-----	---------------------

①授業計画の達成度について

授業目的や授業計画については、初回にシラバスのコピーを配布して説明し、各回の進度は学生の理解度にあわせながら調整をしてほぼ計画通りに進めることができたと考えています。しかし、学生の評価では、シラバスが役だったとの回答が6割で、「あまり役立たなかった26.7%、読まなかった13.3%」と4割が回答していることから授業目的や位置づけなどを意識させる点に問題があったと考えています。

難易度については、少し難しさも感じるが理解できるという程度を目標としてやってきました。学生の評価「やや難しい81.3%、やや易しい18.8%」は、ほぼねらい通りで適切であったと考えます。

②授業の進め方について

説明などの聞き取りやすさ、理解度の確認においては意識をしながら授業を進めてきましたが、分かりやすさという点において、75%の学生が分かりやすいと回答しているのに「やや分かりにくい25.0%」がいることにより、分かりやすさに重点をおいた工夫が必要であると考えます。

授業時間以外の学修活動の指導に関しては、毎回課題プリントをやってくるように指導し、次回に小テストを行い、指導はしているつもりですが、小テストの結果がよくない一部の学生がいることやアンケート評価の「めったに指導していない18.8%」という点から、徹底できているとはいえないことが分かりました。

授業環境については、たまに一部の学生においてマナーが悪かったり私語が目だったりする場合については注意をする程度であり、特に大きな問題はないと感じています。

③アンケート全体を通しての自己評価、及び、今後の授業改善計画について

昨年度改善計画であげた点については、今回の学生の評価においても成果が出ていると考えられ、今回の学生の授業満足度についても「かなり満足している38.5%、やや満足している61.5%」であり、満足していないという評価がなかったことに対しては、一応クリアしているということになります。しかし、今回のアンケートから、より満足度の高い授業を行うために、今後、以下の点を改善するつもりです。

1. 毎回の授業開始時に、今回の授業の位置づけや目的などの導入部分に力をいれる
2. 具体例、身近な例を多く取り入れることにより分かりやすい授業を工夫する
3. 課題提出の徹底による授業時間外の学修活動を徹底する

2012年 前期

教員コメント

時間割番号	1201	科目名	日本語コミュニケーション I
-------	------	-----	----------------

①授業計画の達成度について

ほぼ目的は、達成されたと認識している。まず始めに、初年次教育プログラムの中での日本語コミュニケーションの意義について時間をかけて確認した。「社会人基礎力」の意味を解説し、就職活動や学力の向上の基礎となる重要な科目であることを確認した。開講当初は、学力確認テスト、科目の設定意義、各項目の解説に時間がとられ、予定を少し遅れ気味であったが、後半受講生も集中して、前期の課題項目を終えることができた。難易度は、丁寧語・謙譲語・尊敬語の項目で高かったと思われるが、まじめに取り組んでいた8割以上の受講生は、ほぼ理解できていたと思われる。出来るだけわかりやすく、時間をかけ、粘り強く、理解度を確認しながら指導したつもりである。力が入りすぎて、「先生の声が大きすぎる」と指摘された。でも講座の雰囲気は非常によく、担当者の私にとって前期科目中でやりがいのあった講座の一つであった。前年度は後期から担当したために、前期でやる気をなくし、あきらめていた受講生がいたが、前期から担当した今年は、最初から自分でしっかりオリエンテーションし良い習慣づけができ、非常にやりやすかった。

②授業の進め方について

ハスキーボイスであるために、聞き取りやすくするために大きめの声で話したが、声が大きすぎると指摘された。解説のために教材研究も他の講義の倍時間をかけ、学生の理解を確認しながら丁寧に進めた。学生も3名を除き、わかりやすい説明に努力していると評価をくれた。授業環境は静かで、私語をする者はほとんどいなかった。脱線して盛り上がり大声で意見交流したために、本題に戻すのに時間がかかり注意したことがあった。でも、よい雰囲気で授業は明るく楽しく展開されていたと思う。教員側の授業に対する熱意や意欲はすべての受講生が感じていたと評価してくれている。その熱意に応えられず、欠席して反省している学生が自己評価において低い評価をしているものと思われる。連続欠席した時、クラブ活動中に出向き、呼び出し指導したことに驚いていたように思えた。その後、持ち授業に出るようになり持ち直した。

③アンケート全体を通しての自己評価、及び、今後の授業改善計画について

7話し方、8理解の確認、9時間外の学習、9教員の熱意・意欲、10受講マナー、13私語対策などの項目で評定平均3点以上が示され担当として意識していた項目で学生はまじめに答えてくれたと思っています。しかし残念ながら学生側の授業時間外の学習の取り組み(3名のみ)において努力できた学生が少なかったのは残念である。次週までの自習課題プリントを毎週渡し、空き時間に学習するように指導したが、まじめに取り組めた受講生が少ないのが残念である。自習の確認方法に工夫が必要であろう。担当するなら、前期から良い習慣をつけさせ担当したい。前期の講座の雰囲気を引きずるように思える。

2012年 前期

教員コメント

時間割番号	1203	科目名	社会科学の考え方
-------	------	-----	----------

①授業計画の達成度について

設問4（シラバスの効用）に対して、「かなり役立った」と「ある程度役立った」を合計すると80.8%あり、おおむね成功していると思われる。

設問5（難易度）に対して、「かなり難しい」と「やや難しい」を合計すると84%もあるが、単位取得率がかなり高い。したがって、難しい内容をよく理解した学生を評価したい。

今後も授業の内容の水準を落とさずに、しかも、分かりやすく授業をしたい。

②授業の進め方について

設問6（分かりやすさ）に対して、「かなり分かりやすい」と「やや分かりやすい」を合計すると84.6%あるが、この割合に満足せず引き続き分かりやすさの向上に努めたい。

設問8（理解度の確認）、設問9（授業時間以外の学修活動の指導）も、「進めている」と「指導している」がそれぞれ約85%あり、ミニテストの実施とその解答例の配布の意義をよく理解してくれている。設問14（授業満足度）も、「満足している」の合計が92.4%あり、引き続き努力したい。

③アンケート全体を通しての自己評価、及び、今後の授業改善計画について

難しい内容をよく理解して単位を修得している学生を高く評価しているが、気になるのは、設問3（授業時間以外の学修活動）に対して、「殆ど行っていない」と「全く行っていない」の合計が34.6%もあることである。教師側も、聞き取りやすく授業を改善していくから、学生諸君の自習活動を今後一層期待したい。

2012年 前期

教員コメント

時間割番号	1204	科目名	日本の文学
-------	------	-----	-------

①授業計画の達成度について

本授業では、授業者の得意とする分野である古代の文学作品を読むことを中心に講義を行った。そのため、留学生には難しく感じられたようである。しかし、彼らが生活している奈良に関わる作品に限定したので、大学の一般教養として必要な内容であると思う。また、本年度は古事記選録1300年の年にあたるので、奈良・京都・出雲などで関連行事・展覧会も主催されるので、日本人学生にも留学生にも身近な話題として取り上げた。
概ね計画は達成できたと認識している。

②授業の進め方について

受講人数は多い方であるが、座席指定をしているためか、私語は少ない。但し、ビジネス学部の1年生の中に授業態度の極めて悪い学生がおり、一度厳しく叱責しなければならないことがあった。それ以降は、概ね快適な環境で授業が進められたと感じている。
古典教材については、できるだけ現代語訳を付けた独自の教材を作成し配布しているが、更にわかりやすい解説を加えた教材を工夫する必要があると思われる。

③アンケート全体を通しての自己評価、及び、今後の授業改善計画について

想定外のマイナス評価はなかったと認識している。
私語対策と授業運営上の必要から座席指定を行っているが、授業アンケートの結果から見て、一定の効果を上げていると思われる。今後も行いたい。但し、前に座ることを希望する学生もるので、柔軟に対応したい。

2012年 前期

教員コメント

時間割番号	1205	科目名	基礎英語 I
-------	------	-----	--------

①授業計画の達成度について

シラバスからはやや遅れているが、おおむね順調に進んでおり、学生たちも授業の目的を良く理解している。

難易度については「易しい」3, 「難しい」1と、実力にばらつきがあるが、学生同士が助け合っ
て補っている。

②授業の進め方について

教員側の説明や態度については、ほぼ満足してもらっているようである。今後は、授業時間外の学
習について、より丁寧に指導したい。

4名という少人数であることもあり、私語の問題は発生していない。

③アンケート全体を通しての自己評価、及び、今後の授業改善計画について

この授業は、英語の完全未習者を対象としており、何よりも英語に親しみ、学習のモチベーション
を維持することを大切にしている。授業時間を楽しく過ごすことだけでなく、それを入り口に自主
学習を深めていけるよう、手助けをすることを今後の目標としたい。

2012年 前期

教員コメント

時間割番号	1217	科目名	オペレーティングシステム基礎
-------	------	-----	----------------

①授業計画の達成度について

本授業はコンピュータを人間が利用する際に必要となるソフトウェアであるオペレーティングシステムの仕組みと仕事内容について学ぶことを目的としている。情報学の中でかなり高度な分野のため毎授業小テストを実施し理解度を確認しながらシラバス通りに授業を進めた。しかし、アンケートを確認すると「かなり難しい」「やや難しい」と回答した学生が86.2%おり、学生にとっては高度な定業授業だったことがいえる。

②授業の進め方について

授業の説明は分かりやすいかという質問に対し「かなり分かりやすい」「やや分かりやすい」と回答した学生が64.3%と少なく、来年度の授業指導方法には変更が必要だと思われる。授業の内容が積み上げになっているため、今年度は小テストを毎授業で実施していたが、理解度があまり上がっていないようなので、来年度の授業からは授業外の課題も取り入れていきたいと考える。また、授業環境としては受講マナーについては「きちんと守っている」「ある程度守っている」が96.5%、と高い回答が得られている。

③アンケート全体を通しての自己評価、及び、今後の授業改善計画について

本授業は演習授業の座学として位置付けられている。よって、覚える知識の多さと高度さが要求されるため、授業内容の理解度があまり高くない。本年度は授業の理解度確認と授業外学習のために、対象授業の翌週に小テストを実施していたが、授業終盤になると小テストのために勉強をしてくる学生が減ってきたように思われる。よって、来年度は課題を出すなどして授業外学習の徹底化と、学生の授業理解度向上を目指して授業で利用したパワーポイントに実例を増やしていき学生が授業内に出てくる用語のイメージしやすくなるように工夫を行う。しかし、学生の授業満足度は「かなり満足している」「やや満足している」と回答した学生が82.1%と高い数値だったため、来年度も授業内容としての魅力は維持していきたいと考える。

2012年 前期

教員コメント

時間割番号	1253	科目名	リスクマネジメント
-------	------	-----	-----------

①授業計画の達成度について

30回の授業を大きく5つのテーマ「社会生活におけるリスクを考える」「企業のリスクを考える」「保険：伝統的なリスク移転の手法」「デリバティブ：代替的なリスク移転の手法」「企業の危機管理のケーススタディ」に区分し、5回の授業と1回の確認テストの6回を一つの単位として授業計画を立てて実行した。成績評価については、定期試験は実施せず、5回の確認テストと出席点で評価する旨を説明したので、学生の納得を得られていると考えている。授業の難易度については、「やや易しい」が21.9%で、約1/5の学生にあたる。この点について学生には、「授業をわかりやすくするために、リスクマネジメントの講義内容のレベルは下げずに、分量を減らすようにしている」ことを説明したので、学生の納得を得られていると考えている。

②授業の進め方について

設問「学生の理解を確かめながら、授業を進めているか」において、「かなり進めている」と「ある程度進めている」を合わせて80%を超えている点、また、設問「説明はわかりやすいですか」において、「かなり分かりやすい」と「やや分かりやすい」を合わせて約85%となっている点は、ある程度の評価ができると思われる。①で述べたように、大きく5つのテーマを設定して、6回を1単位としてことに加えて、各回にA4 1枚の必修課題を用意して、必ず提出を求めたことも効果があったと考えている。各回の必修課題の回答用紙は、次回の復習および、確認テストを受験するときの参照資料としても活用したことも効果があったと考えている。

③アンケート全体を通しての自己評価、及び、今後の授業改善計画について

設問「話し方は聞き取りやすいですか」に関連して、アンケートにおいてではなく、授業改善シートで学生から、「声が大きすぎて聞き取りにくい」という指摘があった。確かに、かつて大教室で声を張り上げて授業をしていた名残もあって、どうしても声を大きくはっきり語気を強めて話す習慣があるようだ。だが思うに、授業でも日常会話と同じように、普通に話しかけるようにする方が、聞き取りやすいということを実感している。また、説明の仕方についても、ナラティブな授業、すなわちテーマに関連した物語を組み込んだ授業構成が必要と考えている。このような構成は個人的には不得意なのであるが、アンカー課題の設定とそれに関連したナラティブを工夫したいと思っている。さらに、評価方法として、学生のパフォーマンスを評価するルーブリックの作成を検討したいと考えている。

2012年 前期

教員コメント

時間割番号	1264	科目名	情報システム開発論
-------	------	-----	-----------

①授業計画の達成度について

授業目的や授業計画については、初回にシラバスのコピーを配布して説明し、各回の進度は学生の理解度にあわせながら調整をしてほぼ計画通りに進めることができたと考えています。学生の評価においても、約80%の学生が、シラバスが役だったと回答しています。

難易度については、少し難しさも感じるが理解できるという程度を目標としてやってきましたが、学生の評価「かなり難しい21.1%、やや難しい68.4%、やや易しい10.5%」によると、もう少し易しくする必要がかると思います。

②授業の進め方について

説明などの聞き取りやすさ、理解度の確認においては意識をしながら授業を進めてきました。85%程度の学生がプラスの評価をしているものの、「やや分かりにくい15.8%」「やや聞き取りにくい5.3%」「あまり理解度確認をしていない15.8%」というマイナスの評価をしている学生がいることに対する工夫が必要であると考えます。

授業時間以外の学修活動の指導に関しては、毎回課題プリントをやってくるように指導し、次回に小テストを行い、指導はしているつもりです。ところが、学修活動を「殆ど行っていない27.8%、全く行っていない5.6%」という回答や、授業時間以外の学修活動の指導について「めったにない21.1%、全くない5.3%」という回答があることから、徹底できていないことが分かりました。

③アンケート全体を通しての自己評価、及び、今後の授業改善計画について

学生の授業満足度において「かなり満足11.1%、やや満足50%、あまり満足していない38.9%」であることから、より満足度の高い授業を行うために、上記の評価分析結果をもとに、以下の点を改善するつもりです。

1. 難易度を見直して適度な難易度をめざすが、3年次以上の専門科目であることからある程度の難易度を保ち、演習や具体例を多く取り入れてより具体的に理解できるように工夫する
2. 課題提出の徹底による授業時間外の学修活動を徹底する

2012年 前期

教員コメント

時間割番号	1301	科目名	基礎数学 I
-------	------	-----	--------

①授業計画の達成度について

プレースメントテストの結果を受けて、数学検定 5 級に合格できることを学習の到達目標にした。この目標を達成するため、テキストの 5 級問題は授業で少なくとも 2 回は学習できるように計画を立て、それを学生に周知させた。しかし学生の理解度に差があり、この学習の到達目標が容易な学生と困難な学生とに分かれていたように思われる。

②授業の進め方について

各人の学習の進行状況に応じてテキストに沿って問題演習を行うという方法をとった。わからない場合は挙手して質問すること、また取り組んだ問題に対する理解度を自己管理シートにチェックしてもらい、自力で正解した問題以外は復習の際に再度取り組むように伝えた。解答に苦勞していても挙手しない学生や、問題演習に集中していない学生もいたので、適宜みて回った。問題演習に取り組むという授業方法であったので、相対的に授業環境は守られていたといえるが、特定の学生につきっきりという訳にもいかなかったために、必ずしも学生の授業満足度は高くなかったように思う。後半には、学生に順次問題を黒板に解答してもらい、それを詳しく説明するという授業方法も取り入れた。

③アンケート全体を通しての自己評価、及び、今後の授業改善計画について

学生数や学生の理解度にもよるが、各人の学習の進行状況に応じてテキストに沿って問題演習を行い、わからない問題については教員が個別に説明するという授業方法だけでなく、基本的事項の説明や模範解答を示し、そして学生に実際に黒板に問題を解答してもらってそれを詳しく論評・採点するという授業方法も適宜加えたならば、当該科目の授業効果はさらに上がるのではないかと思うようになった。今後の授業改善計画に活かしたい。

2012年 前期

教員コメント

時間割番号	1302	科目名	基礎数学 I
-------	------	-----	--------

①授業計画の達成度について

15回の授業を大きく5つに区分し、3回の授業で確認テストをすることを一つの単位として授業計画を立てて実行した。数学検定の8級に1区分、7級に2区分、6級に2区分とし、各回の演習では、計算の種類と数理問題ごとにテーマを決めて問題を選択した。設問「この授業の難易度は適当ですか」について、「かなり難しい」から「かなり易しい」までほぼ4分するアンケート結果であった。成績評価を学部共通でおこなうことになっているので、合格を目指して均等に問題をこなす必要があり、これだけ難易度の評価が一様に分布するクラスでの授業では、個別の対応が困難であった。クラスの構成に問題があったのではないかと考えている。

②授業の進め方について

設問「学生の理解を確かめながら、授業を進めているか」において、「かなり進めている」と「ある程度進めている」を合わせて約75%となっている点、また、設問「説明はわかりやすいですか」において、「かなり分かりやすい」と「やや分かりやすい」を合わせて約80%となっている点は、①で述べたような問題点があるにしては高い割合で、学生が好意的に評価したのではないかとと思われる。ただし、設問「話し方は聞き取りやすいですか」において、「やや聞き取りにくい」と「かなり聞き取りにくい」を合わせて約30%で、反省すべき点である。おそらく、早口であったことと、歯切れが悪いことで、特に留学生に聞き取りにくい話し方になっていたと考えている。

③アンケート全体を通しての自己評価、及び、今後の授業改善計画について

設問「私語対策をしていますか」において、「よくしている」と「ある程度している」を合わせて約70%である一方で、設問「私語が多いですか」において、「かなり多い」と「やや多い」を合わせると50%を超えていることから、有効な私語対策になっていないことが判明した。私語を注意するといった対策に終始するのではなく、本質的には、授業に集中できるように内容を構成しなければならないだろう。受講生全員への説明を中心にする時間と、できれば理解度に即した個別に対応する時間を有効に配置して、全員が自分の程度に応じて、90分の集中を持続できるようにするのが理想である。そのためには、適切なアンカー課題と、習熟度の応じた問題集を用意する必要がある。さらには、評価方法として、学生のパフォーマンスを評価するルーブリックの作成を検討したいと考えている。

2012年 前期

教員コメント

時間割番号	1307	科目名	資格試験対策英語 I
-------	------	-----	------------

①授業計画の達成度について

シラバスは順調に消化できた。難易度については、学力・意欲とも高い層と、どちらにも難がある層とに二分されており、調整に苦慮した。TOEIC という外部試験の客観的評価基準と、学生の実力のギャップをいかに埋めるかが毎年の課題である。最終的には、平均 2.85 と、妥当な難易度の範囲だったといえるだろう。

②授業の進め方について

説明や理解度確認については、おおむね満足が得られているようである。テキスト以外の独自教材を作成し、毎回復習を行ったのも功を奏しているかもしれない。私語は多くなく、全体の満足度も 3.08 と、まずまずの評価である。

③アンケート全体を通しての自己評価、及び、今後の授業改善計画について

授業時間以外の学修活動について、昨年の「TOEIC 対策英語 I」にくらべて時間を割けなかった。授業中にやるべき項目が増えたのが最大の原因である。来期は、E ラーニングを含めた課外活動に力を入れていきたい。

2012年 前期

教員コメント

時間割番号	1308	科目名	経営組織論 I
-------	------	-----	---------

①授業計画の達成度について

最初はシラバスに沿って授業を行っていたが、半分ぐらいのところ（7回目、中間アンケート）で、実は授業の半分以上を理解できていない、集中力は1時間持たないことが判明した。そのため、8回以降は1単元を2つに分けて進めることになった。そういう視点からでは、授業計画に従って運営は行えていない。そのせいか、あるいはその結果か、難易度は難しい方に偏っている。

②授業の進め方について

声や言葉、説明においては、かなりの人たちにわかりやすいや聞き取りやすいという支持を得ることができ、満足している。

また、学生の理解を確認しながら進めているかという点において、自分では小テストや授業に前回の復習など行うことが確認とみなしていたが、学生もそうした意向をきちんと理解してくれており、うれしく思う。

授業環境であるが、私語が多い者を退室させていたが、かなり反感を買ったようだ。しかしながら、授業への積極的参加を希望している学生のことを考えたり、彼らからの私語対策をしている、ある程度授業に満足しているというアンケートの結果から今後もきちんとした姿勢で対処していこうと思う。ただし、別の私語対策方法も考える必要があると策を練っているところである。

③アンケート全体を通しての自己評価、及び、今後の授業改善計画について

「やや・・・」「ある程度・・・」という評価が多いのはわかるが、学生にとってどこをどう改善すれば満足がいくのかがアンケートから得られないため、今後の授業改善において暗中模索である。

2012年 前期

教員コメント

時間割番号	1316	科目名	情報数学演習 I
-------	------	-----	----------

①授業計画の達成度について

回答者の四分の三以上はシラバスがある程度以上に役立ったと答えていることから、科目の達成目標はある程度受講生に伝わっていると思われる。

回答者のほとんどのがやや難しい以上に答えているが、定期試験の正答率はそれほど悪くはなかった。

②授業の進め方について

授業進度はほぼ「情報数学 I」に同期させていたが、分野によって問題数の多寡があったので、回によっては全員に当てられないこともあった。最終的には一人平均 10 問以上は問題を当てていたため、それぞれの学生の理解度を見るには十分な演習量になったと思われる。その上で、定期試験で知識や計算力の定着度を見ることができた。

③アンケート全体を通しての自己評価、及び、今後の授業改善計画について

問題ごとに難易度がそろっていないので、優しい問題に多く当たったものやそうでない者もいた。この点に関しては、全体を通して難易度を調節するような配慮が必要になってくる。今回は、予習・復習を重視しなかったが、今後は問題数を増やし、宿題や課題を増やしていく予定である。

2012年 前期

教員コメント

時間割番号	1317	科目名	基礎デッサン
-------	------	-----	--------

①授業計画の達成度について

第1週目に授業オリエンテーションで、シラバスの重要性を説明しているが設問4では、読まなかった学生がいる。授業を聞いていない学生があり、残念である。設問5の難易度はばらけているが、この授業では、欠席者が目立った。またコミュニケーションがうまく取れずに、計画通りにデッサンが進まなかったことを反省している。達成度は低い。

②授業の進め方について

声や言葉、説明は概ね分かりやすい、聞き取りやすいとの回答である。個人指導のため、学生とコミュニケーションを取りながら進めている。この授業は、受講生も多く、よくコミュニケーションが取れた学生とそうでない学生がいた。個人指導の授業ですから理解度を確認しながら、デッサンの進み具合を見ながら進めている。この授業の学生の満足度は概ね、良好ですが、今後もより満足度を高める努力が必要である。

③アンケート全体を通しての自己評価、及び、今後の授業改善計画について

学生との対話形式の授業であるが、対話が出来ない学生がいる。このような学生といかに対話をし、デッサンを理解してもらうかが今後の課題である。デッサンという以前に、絵が苦手という学生が目立つ。絵を描くことを、放棄した学生をいかにデッサンをしてもらえるかが大きな問題で、課題である。より解りやすい授業にしたい。

2012年 前期

教員コメント

時間割番号	1352	科目名	e-ビジネス論
-------	------	-----	---------

①授業計画の達成度について

シラバスは、かなり役立った(29.4%)、ある程度役立った(52.9%)という結果から、一定の評価が得られていると考える。

ただし、今年は特に留学生が多かったこともあり、日本のビジネス事情に必ずしも理解があるわけではないので、多少、進度に目をつむってでも、そのあたりを丁寧にやったつもりである。

しかしながら、難易度としては、かなり難しい(15.2%)、やや難しい(66.7%)という結果となり、必ずしもこちらが意図した通りにはいかなかった。

一方で、これ以上、レベルを下げるのも難しく、結果的にはほとんどの学生が合格点に達したので、学生諸君が努力した結果は出たと思われる。

②授業の進め方について

留学生が多いことにより、例年以上に、わかりやすい言葉づかい、高い明瞭度で話したつもりであり、理解度の確認の問いかけも頻繁に行った。

私語については、その都度、厳しく指摘をしているが、完全にはなくなる。

総じて授業運営については、順調に進められたと考える。

満足度の設問に対して、かなり満足している(46.9%)、満足している(37.5%)であり、84%の学生が満足度を感じている

③アンケート全体を通しての自己評価、及び、今後の授業改善計画について

経営情報領域に属する本科目は、卒業後、会社に入って仕事をする大多数の学生にとって、有用な講義であると考え、経営学部時代からずっと頑張ってきたが、情報学部の理科系シフトに伴い、来季で閉講になるのが、非常に残念である。

これまでの蓄積をもとに、最高の講義をして締めくりたいと思っている。

2012年 前期

教員コメント

時間割番号	1409	科目名	日本語（上級作文）Ⅰ
-------	------	-----	------------

①授業計画の達成度について

本授業の目的は、大学で必要とされる作文能力（レポート作成・小論文）を付けることであるが、合わせて、その背景にある日本語の特色や日本語の歴史的な事象について学ぶことも重要な事項としている。そのため、やや難しいと感じる学生もいたようであるが、上級作文を身につけるためには必要な事である。引き続き行いたい。
概ね計画は達成できたと認識している。

②授業の進め方について

受講人数も適当で座席指定もしているためか、私語もなく、授業は極めてスムーズに進んでいる。学生も積極的に質問をするので、生きた授業になっている。
一回の授業で、半数の学生に作文を板書させているが、文字の形、語彙の問題、助詞の使い方など、全員で検討するので、効率的に授業が進んでいると認識している。

③アンケート全体を通しての自己評価、及び、今後の授業改善計画について

想定外のマイナス評価はなかったと認識している。
辞書を持参せずに授業を受ける学生が2~3名いる。辞書を使う癖をつけておかないと、その場限りの浅い知識になるので、一層の注意が必要だと感じている。
授業開始と同時に、小テストを行っているが、遅刻防止に一定の効果が出ていると思われる。今後も引き続き行う。座席指定も、多少の融通は利かせながらも、引き続き行う。
作文の力は読解力と裏表関係であるから、読解の教材の開拓が重要であると考えている。

2012年 前期

教員コメント

時間割番号	1411	科目名	リーダーシップ論 I
-------	------	-----	------------

①授業計画の達成度について

授業の目標、内容、評価方法については、第 1 回目の授業以外でも確認の意味で説明をするようにしている。その結果、これらの内容がシラバスに近い形で実践できていると考えている。しかし、授業の難易度に関しては「かなり難しい」と「やや難しい」で大多数（89%）を占めていた。

②授業の進め方について

声の大きさや表現、板書の文字の見やすさについては問題ないと考えている。学生の理解を確認しながら授業を進めることについては、前期中旬に実施したアンケート調査結果の学生からの要望（「前回授業の復習をもっとしっかりやってほしい」）が役に立った。私語が気になるという声もあった。

③アンケート全体を通しての自己評価、及び、今後の授業改善計画について

授業の難易度は高いということであるが、一方で「この授業の先生の説明は分かりやすいですか」という質問（問 6）の回答は「かなり分かりやすい」と「やや分かりやすい」が大多数（94%）を占めている。高度な専門知識を身につけるとい教育目標がある以上、授業のレベルは適切であると認識している。受講意欲や受講マナーのさらなる向上を図っていくことで人間性を向上させることにも努めていきたい。

2012年 前期

教員コメント

時間割番号	1453	科目名	環境経済学
-------	------	-----	-------

①授業計画の達成度について

「授業の目標、内容、評価法などを示したシラバスは、この授業を履修するのに役立ちましたか」との設問に対し、「読まなかった」が13名中6名と半数近くを占めているのは残念ですが、読んだ上で「あまり役立たなかった」は7名中1名と、読みさえすればそれなりに役立ったようです。ただし、学生の理解度を確認しながら授業を進めた結果、当初の授業計画の第26回～第28回の内容に入れなかったことが心残りです。

②授業の進め方について

「この授業の先生は学生の理解度を確認しながらこの授業を進めていますか」との設問に対し、「全く進めていない」が13名中6名であるのが目に付きます。実態としては、毎回の授業で質問・感想・意見等の提出を求めて次回の授業でコメントを返していることに加え、計6回の小テストで授業の理解度を確認しつつ復習を行うとともに、レポート提出に先立って「目標規定文及び文献調査メモ」及び「アウトライン」の提出を求めてきめこまかく添削指導を行うなどしてきたところです。よって、「全く進めていない」と答えた学生は、自分たちの理解度（の無さ）にあわせて授業の水準を落とすことを求めているものと理解できます。

③アンケート全体を通しての自己評価、及び、今後の授業改善計画について

この授業で学生の不満が最も大きいのは、レポートについてであると思われます。昨年度まではレポートを提出しなくても他で得点を稼げば単位は修得できましたが、学士力の保証のためにも今年度はレポート提出を義務付けました。私としては、「レポートの書き方」の指導を個別の専門教育科目において行うのは筋違いであることを重々承知しつつ、しかし、レポートを「執筆」した学生本人が全く内容を理解しないまま何かを丸写ししたものに単位を与えるわけにはいかない以上、安易に切り捨てるのではなく、単位を与えるためにこそ、これまでも増してきめこまかなレポート作成指導を行っていきたいと思います。

2012年 前期

教員コメント

時間割番号	1455	科目名	ベンチャー企業論
-------	------	-----	----------

①授業計画の達成度について

(1) 授業目標・学習の到達目標や授業計画などをシラバスにも明記したが、13.2%の人にとっては実際の授業には役立たなかった。(2) 授業は教科書の内容を基本にし、大事だと思うところは口述し板書したが、71.1%の人は授業が難しいと感じている。
以上を総合すれば、今後、シラバスの内容は受講生が十分に理解できるように工夫して作成したい。

②授業の進め方について

(1) 説明の仕方では、18.4%の人が分かりにくい、(2) 話し方の明瞭さでは、10.5%の人が聞き取りにくい、(3) 受講生の理解度の確認では、10.8%の人が確認がなされていない、(4) 授業以外での学習活動では 18.4%の人が私からの指導がない、とそれぞれ感じている。特に、(5) 私語のあることは受講生全員が認めており、私の対応が不十分であるとの声が 26.4%もある。
以上、私の不注意のために実施出来なかった部分を含め、(1)～(5)に関しては大いに反省し、特に私語対策についてはさらに工夫をしなければならない。

③アンケート全体を通しての自己評価、及び、今後の授業改善計画について

教科書を使用しても重要と思うことや関連することは、ノートに書くのが当然と思うが、56.4%の人がそうしていないことが気に掛かる。授業へは 16.2%の人が満足していないことは、意欲のない人が 10.3%いることから分かるが、それ以外でも満足していない人がいることには注意しなければならない。

今後は、より注意を払って受講生が納得できそうなシラバスを作成し、授業では、教科書の内容を精査し、必要なことだけを伝えるようにしたい。

2012年 前期

教員コメント

時間割番号	2101	科目名	基礎英語 I
-------	------	-----	--------

①授業計画の達成度について

授業はシラバスに従って順調に進んでいる。難易度については、これ以上かみくだくのは難しいと思えるほど基礎的なレベルだが、なお「難しい」と感じる学生がいる。しかし、全般的には評定平均 2.83 と、ほぼ妥当な難易度といえるだろう。

②授業の進め方について

きわめて初歩的な文法項目を徹底的に反復練習する E ラーニングの授業なので、単調さに飽きたり、膨大な量に苦痛を感じたりする学生もいるようである。解説や復習テストの時間を設け、変化をつけながら理解度を確認するよう努めている。満足度は 3.09 と、まずまずの評価を得られている。

③アンケート全体を通しての自己評価、及び、今後の授業改善計画について

解説の時間に集中させる方策が必要である。PC の目的外使用にふけったり、寝ている者は論外としても、指示を待たずに E ラーニング学習を始めている者も多く、結局、学習の効率が悪くなっている。それ以外の面では特に問題は見られない。

2012年 前期

教員コメント

時間割番号	2102	科目名	基礎英語 I
-------	------	-----	--------

①授業計画の達成度について

eラーニング教材により英語の基礎学力の習得と向上を徹底するという目標を学生に十分認識させた上で、授業も若干の足踏みはあったものの、計画どおり全日程を終了して前期試験に臨むことができた。また到達目標は基礎的なレベルであるにもかかわらず、難易度については「難しい」と回答している学生がやや高い割合を占めているのは、本学の学生の恒常化してしまった現状とは言えやはり困ったことではある。しかし基礎学力の習得と向上が目標である以上、安易な妥協は許されないであろう。

②授業の進め方について

授業では当日のeラーニングの作業に先立ち、その内容についての説明を板書とプリントで実施し、また作業中でのたびたびの質問にも当然ながらその場で明確な対応を試みているせいか、声の聞き取りやすさと説明の分かりやすさについてはおおむね前向きな回答であった。理解度の確認についても、授業を進めながら同時に後ろを振り返るようなことはなかなか困難な面もあったが、おおむね前向きな回答が得られたようであった。授業環境については残念ながら、私語が多いという回答がやや多かった。eラーニングの作業の最中はほぼ静かではあるが、作業を早くやり終えた学生は開放感からつい私語に走ってしまったり、あるいは学生同士が互いに相談し教え合いながら作業を進めている時に私語が発生してしまうなど、この種の授業に特有と思われるような問題も感じられた。以上のように、問題点は決して少なくはなかったとは言え、授業への満足度については前向きな回答が多かったのはやや予想外であった。

③アンケート全体を通しての自己評価、及び、今後の授業改善計画について

一部の学生とは言え、たびたびテキストを忘れる学生が見られ、またそのことが本人の授業への取り組みと理解度の妨げとなってしまうようであり、何度も注意はしているもののなかなか改まらず、この点の指導をもっと徹底すべきであろう。またeラーニングによる学習は何よりもまず学生本人の自主的な取り組みで進んでいくものである。とは言え、とりわけ英語力が著しく低い学生にとってはやはり大変な作業のようである。そうした学生に対し、教員が横から手取り足取り手伝うのはあまり好ましいとは言えないかもしれないが、だからと言って足踏みしたままの状態を放置しておくわけにもいかないであろう。前年度に続いてやはり同様のこうした課題にまたもや直面してしまったが、授業時間内だけでは対処にも限界があるだろう。再履修を余儀なくされていくこうした学生については学生支援センターによる補習という新たな取り組みがスタートしており、授業との両輪という形でどこまで新たな成果が得られるかが注目される場所である。授業中での教員側のさらなる指導の徹底が必要であることはもちろんであるが、何よりも授業とその補習への学生自身の奮起が求められるであろう。

2012年 前期

教員コメント

時間割番号	2107	科目名	デジタル・アーカイブ
-------	------	-----	------------

①授業計画の達成度について

シラバスが履修に役立ったかの問いに対して、かなり役立った 33.3%、ある程度役立った 41.7%と、大半がシラバスの内容を理解したうえで履修していると考えられる。

授業の難易度に対する回答では、やや難しい 27.3%、やや易しい 63.6%という回答から、学生にとって理解しやすい難易度になっていると考えられる。

②授業の進め方について

先生の説明について大半の学生は分かりやすいとの回答を得た。また、話が聞き取りやすいかについても、大半は聞き取りやすいと思っていることがわかった。学生の理解を確かめながら、授業を進めているかの問いに対しても大半は問題なさそうである。私語については、やや多いが 27.3%と若干多いが、それに対して私語対策をしているかの問いに対しては大半がしていると感じている。

総合的に満足がいく授業かどうかの質問に対しては、かなり満足している 63.6%、やや満足している 27.3%と、多くの学生は満足しているようである。

③アンケート全体を通しての自己評価、及び、今後の授業改善計画について

アンケート結果から、今の授業の進め方でとくに大きな問題は無さそうなので、このまま来年度も気を抜かずに授業を進めていきたい。

2012年 前期

教員コメント

時間割番号	2110	科目名	情報学基礎
-------	------	-----	-------

①授業計画の達成度について

予習・復習を期待して、また授業全体の目標と個々の内容の位置づけが、理解しやすいように教科書を採用しています。授業では、教科書を読み合わせながら進めることを基本にしています。パワーポイントに加えて今年は、学びのポイントをまとめたプリントを配布していますが、これらの教材に積極的に取り組む意欲を出していただければ、私の口元だけで理解するのは難しいと思います。

②授業の進め方について

授業の難易度が適当ということでは共通の認識が得られているようですが、理解度を確認するための授業時間内レポートは1回が限度ですので、わからないことについてはそのように授業中なり時間外に質問するなりしていただかないと自動車の運転のようにはまいりません。

③アンケート全体を通しての自己評価、及び、今後の授業改善計画について

授業中のレポートに、理解できていない内容について記載していただくことにいたしましょう。その事柄について自分でも教科書を読みこむなりネットで調べるなりの復習をしていただくことも必要ですが。

2012年 前期

教員コメント

時間割番号	2203	科目名	基礎数学 I
-------	------	-----	--------

①授業計画の達成度について

シラバスに関しては、担当者共通のものであり、授業方法も各担当者のやり方に任せられているので、あまり参考にはならなかったかもしれない。

難易度は基本的に数学の難易度が反映されるため、個々人により感じ方は様々とならざるを得ない。

試験の結果からすれば、達成度については概ね良いとってよいのではないかと思われる。

②授業の進め方について

授業の説明、聞き取りやすさ、理解度の確認、授業時間外の学習活動の指導が概ね良いとの回答が多く、授業環境についても概ね良いとの判断できるように思われる。また、授業満足度も概ね良いとの回答が多かった点は良かったように思う。

③アンケート全体を通しての自己評価、及び、今後の授業改善計画について

概して授業内容は良いとの回答であったように思われる。就任一年目で試行錯誤をしながらの授業としては良かったのではないかと考える。今後はやり方などをさらに改善してより理解しやすい授業にしたいと考える。

2012年 前期

教員コメント

時間割番号	2205	科目名	企業論 I
-------	------	-----	-------

①授業計画の達成度について

授業の目標、内容、評価方法については、第 1 回目の授業以外でも確認の意味で説明をするようにしている。その結果、これらの内容がシラバスに近い形で実践できていると考えている。授業の難易度に関しては「かなり難しい」から「やや易しい」までバラつきがみられた。

②授業の進め方について

声の大きさや表現、板書の文字の見やすさについては問題ないと考えている。学生の理解を確認しながら授業を進めることについては、前期中旬に実施したアンケート調査結果の学生からの要望（「前回授業の復習をもっとしっかりやってほしい」）が役に立った。私語が気になるという声もあった。

③アンケート全体を通しての自己評価、及び、今後の授業改善計画について

授業の難易度のバラつきがあるため、参考文献を基礎的なレベルと標準的なレベルの 2 種類を紹介していく。ただし、参考文献を紹介しても、学生が読まないという可能性も十分に予想できるため、あくまでも授業での理解度を高めることが大前提である。そのためにも、受講意欲と受講マナーのさらなる向上に努めていく。

2012年 前期

教員コメント

時間割番号	2251	科目名	インターネット英語 I
-------	------	-----	-------------

①授業計画の達成度について

ネット上での外国人とのやり取りの文例やネット上からダウンロードした最新のニュースの英文で比較的短くて内容的にも文法的にも読みやすそうな題材を用い、単語、熟語はもちろん文法の基礎を確認しながら英語の基礎学力の向上を目指した授業計画を15回の日程どおり実施することができた。ただ、旧課程の科目であるため受講生はすべて3回生以上であり、卒業要件を満たすことが第一目的の再履修、再々履修、再々々履修といったレベルの学生の割合が増えているせいもあるのか、難易度については「難しい」という回答が3分の2を占め、その一方で自主的で前向きに取り組む学生も見られ、「易しい」という回答が残り3分の1を占めた。このように学生のレベルが二極化している点でやりづらさが感じられた。

②授業の進め方について

声や言葉、説明についてはおおむね前向きな回答であり、理解度の確認については、自身としては逆に授業を先へ計画どおり進めたいという意識が常に先行してしまっていたと思うが、アンケート上では前向きな回答が得られた。授業環境については、私語が「多い」が約4割であったが、旧課程の科目なので受講生の数も前年度よりもさらに減少したことに比例して私語もかなり減っているのは確かである。とは言え、私語に対しては引き続き毅然とした態度で対処しなければならないの言うまでもないことである。授業満足度については8割の学生から前向きな回答が得られたが、後期はさらにこれを10割に限りなく近づけていければ幸いである。

③アンケート全体を通しての自己評価、及び、今後の授業改善計画について

この科目は分類上は基礎科目ではなく正規の外国語科目なので、「難しい」と回答されてもあまりこれ以上難度を下げるわけにはいかないとと思われるが、受講生の数も習熟度も下がっていく一方であるため対処も難しくなっていくであろう。この科目の名にふさわしい内容を維持することは必要であるとは言え、基礎科目のレベル、すなわち同じく旧課程の「英語コミュニケーション」や新課程の「基礎英語」のような文法の究極のイロハの復習や確認も同時に取り入れていかなければ授業そのものが成り立たなくなる恐れもあるだろう。今回のアンケート結果からは授業はまだ何とかまともなレベルで進んでいるという気がするが、変わりゆくであろう先々の状況を先取りした対処の仕方を考えていくことがますます必要となってくるであろう。

2012年 前期

教員コメント

時間割番号	2301	科目名	ITリテラシー I
-------	------	-----	-----------

①授業計画の達成度について

設問 4 に関しては、回答結果が「役立った (含むかなり)」が 94.1%であり、授業運営はおおむね授業計画に従っていると考えている。

設問 5 に関しては、回答結果が「難しい (含むかなり)」が 64.7%であり、授業の難易度はやや難しい傾向であるのかと考えているが、当該講義は、習熟度別のクラス分けになっているため、他のクラスの回答結果も考慮し、難易度を設定する必要があると考えている。

②授業の進め方について

設問 6・7 に関しては、回答結果が「分かり易い・聞き取りやすいた (含むかなり)」が双方とも 100%であり、良好であると考えている。

設問 8・9 に関しては、回答結果が「進めている・指導している (含むかなり)」が双方とも 94.1%以上であり、良好であると考えている。

設問 11-13 に関しては、回答結果が「マナーを守っている (含むかなり)」が 94.1%であり、「私語対策している (含むよく)」が 76.5%であるが、「私語が多い (含むかなり)」が、58.5%となっており、もう少し対策を強化する必要があると考えている。

設問 14 に関しては、回答結果が「満足 (含むかなり)」が 100%であり、基本的な進め方は良好であると考えている。

③アンケート全体を通しての自己評価、及び、今後の授業改善計画について

上記の結果から達成度および進め方に関しては、現在の進め方を基本的には踏襲したいと考えている。しかし、私語対策をもう少し改善し、強化する必要性があり、当該講義担当の他の先生方とも相談の上、共通した対策を講じたいと考えている。

2012年 前期

教員コメント

時間割番号	2304	科目名	マーケティングの仕組みとビジネス
-------	------	-----	------------------

①授業計画の達成度について

① アンケート上、一部学生4~5名に全く意欲がない者がいた。これらの学生の聞く必要はないと思われる。のこりの学生の意見に従えば、学習計画は問題なく遂行できたと考えている。

②授業の進め方について

② 講義中、無礼な態度な学生がいたが、きびしく注意し、講義環境を保って進めた。本講は学力の低い学生を三者面談で対応するが、より本質的なのは、学習意欲もなく、身の程もわかっていない者こそ保護者を呼び出すべきだと思う。注意すること自体が講義環境をおおきく損なわれていると感じる。

③アンケート全体を通しての自己評価、及び、今後の授業改善計画について

③ 少人数の大学なので、できるだけ名前を覚えて講義を進めていきたい。座席指定もあり得るのではないかと思った。

2012年 前期

教員コメント

時間割番号	2401	科目名	基礎英語Ⅱ
-------	------	-----	-------

①授業計画の達成度について

シラバス通りには進んでいるが、授業の目的を認識せず、むしろ妨害する学生が複数おり、他の学生たちの迷惑となっている。難易度については、異なる学生層が入り交じっているため、「難しい」と「易しい」の両者の意見が見られる。平均値としては2.74と、妥当なところに収まっている。

②授業の進め方について

教員についての評価（設問6～10）は、最高ではないものの、ほぼ満足すべきレベルである。問題は、私語が「多い」という回答が突出していることである。前述の妨害する学生層に起因するものだが、そのつど対応策を試みた（ルールを決め、破ると減点する、ワークシートを作成して記入と提出を義務づける）ものの、抜本的解決には至らなかった。

③アンケート全体を通しての自己評価、及び、今後の授業改善計画について

今年度前期については、クラス編成に根本的な問題があった。①旧カリキュラムの再履修者 ②新カリキュラムの2年次生以上（基礎英語Ⅰ再履修経験者） ③新カリキュラムの1年次生（プレースメント・テストにより基礎英語Ⅰの履修を免除された者）、の混合クラスだったため、人数も非常に多く、また学力差、意欲の差も激しかった。来年度は①が減るため、ここまでの問題は出ないと思うが、クラス編成時点でよく検討したい。

2012年 前期

教員コメント

時間割番号	2403	科目名	地球の科学
-------	------	-----	-------

①授業計画の達成度について

シラバスを通して授業内容や目的を把握した受講生は、「ある程度」を含めて85%と大部分を占めていた。毎回、授業の冒頭でも、今後の授業展開やその日の授業内容を提示したことから、把握していた受講生が多かったものと思われる。難易度に関しては、71%の受講生が「難しい」と感じたが、その大半は「やや難しい」(56%)程度であるため、難易度の設定には大きな問題はないと判断する。

②授業の進め方について

声や説明の明瞭さに対しては、「やや」も含め、90%前後の受講生が「わかりやすい」と答えている。授業中の理解度確認でも「ある程度」を含め、80%以上の受講生が肯定的な回答を寄せているが、個人的には不十分な面があったと感じている。また、私語の多さを感じている受講生も多く(約40%)、私語対策に関しては不備な面が多々あった。そうした問題があるものの、「やや」を含め、90%以上の受講生が授業に満足している。

③アンケート全体を通しての自己評価、及び、今後の授業改善計画について

静穏な授業環境を維持するためにも、私語対策が重要な課題と言える。授業からの意識の逸脱が私語を引き寄せるきっかけとなるだけに、積極的に授業に参加するような仕掛けが必要となる。例えば、ワークシートや発問の活用が考えられ、そうした「道具」を授業に導入する方法について検討していかなければならない。これらの「道具」に関しては、授業中の理解度確認にも有効であると考えられる。

2012年 前期

教員コメント

時間割番号	2411	科目名	マーケティング・リサーチ
-------	------	-----	--------------

①授業計画の達成度について

① 講義者数が思ったよりも少なかったため、シラバスの内容・成績評価を一部変更した。オリエンテーションにて学生の同意をとりつけたため、問題なく計画は遂行できたと思われる。実際そのようなアンケート結果になっている。

②授業の進め方について

② グループワークが中心となった講義なので、意欲的な発言、意欲的な質問がなかった者には、何をしているかがわからなかったと思われる。今後の社会にでたとき、どのような知性が試されるのか自問すべきではないだろうか。

③アンケート全体を通しての自己評価、及び、今後の授業改善計画について

③ アンケートを見ると、私語が多いとあるが、グループワークでのディスカッションのことを指しているのだろう。そのような私語は歓迎である。おそらく留学生がアンケートの言葉の意味を取り違えている可能性がある。もし、分析性を高めるのであれば、アンケートの匿名性を払拭すべきではないだろうか。

2012年 前期

教員コメント

時間割番号	2415	科目名	ウェブデザイン
-------	------	-----	---------

①授業計画の達成度について

今年度より開講した科目であるが、学生の適正や能力に合わせた役割でのグループ活動として、学生自らの適正に合った最善の課題制作を行う事が出来たと同時に、グループ活動を体験する事で、学生間のコミュニケーション、及び学生の責任能力や出席率の向上にも繋がった。最終的には、当初の学習の到達目標以上の成果が出た。

②授業の進め方について

理解する事が難しい箇所については繰り返し説明を行い、随時、学生の進行状況を確認しながら理解しやすい参考例を表示し、授業を進行することが出来たと感じる。後半、グループワークを主としたディスカッションやミーティングを行い、日常生活の中からアイデアを出すための自由討論（私語含む）を軸としたが、最終的にはそれらのプロセスを通じ、課題テーマに繋げることが出来たと感じる。学生の授業満足度は高いと感じる。

③アンケート全体を通しての自己評価、及び、今後の授業改善計画について

ある程度の基本的な演習を経た上で、自然とグループワークに繋げる為の段階的な取り組みが必要であると感じた。今後は、2名での共同作業、3名での共同作業を踏まえた上で、最終的なグループ分けを行うための授業計画を立てたい。

2012年 前期

教員コメント

時間割番号	3101	科目名	日本語(語彙・読解) I
-------	------	-----	--------------

①授業計画の達成度について

本年度において留学生の日本語能力は例年に比較するとやや低いではないかと感じる。まだ、学習意欲もやや低いと思われる。出席について 2 名の長期欠課を除いて良好である。シラバスに従って授業を進めているが、学生からの要望と日本語能力試験の関係で調整した部分もある。

②授業の進め方について

中学校程度の漢字や語彙を中心に、毎回 100 個以上の語彙を覚えさせた。また、その都度小テストを行い、その場で消化させる。しかし、殆どの学生は復習の習慣がないので、繰り返して練習しなければならない。そのため、計画より効果が薄いではないかと感じる。

また、読書の時間を設け、要約を書かせたりして、図書館で読書する習慣を身につけようとした。その他、できる限り現代社会の話題テーマにして、語彙のみならず広い範囲で興味をもたせようとした。その結果、話題が増え、語彙力の向上が見られた。

なるべく内容を分かりやすく説明し、板書もしている。漢字圏の学生にとって、落とし穴になる語彙を繰り返して注意したりしている。学生の理解についてその都度確認している。

新学期当初から座席を決めて、携帯電話の使用、居眠り、私語などについて厳しく注意したので、教室秩序に時間をかけることはなかった。新学期当初に比べ、期末時の結果からみると語彙力の向上が見られた。

③アンケート全体を通しての自己評価、及び、今後の授業改善計画について

アンケートを通して殆どの学生は、授業に対して満足できていると思われる。学生からは教員の熱意と意欲を感じる評価を受けた。総合的に見てもかなり満足している学生が多い。記述欄にも真剣に意見を書いた学生もおり、これを今後の授業改善につなげたい。また、学生の語学力差が大きいので、さらに工夫する必要があると思う。

2012年 前期

教員コメント

時間割番号	3104	科目名	デジタル表現入門
-------	------	-----	----------

①授業計画の達成度について

昨年度の反省を踏まえ、本年度からは Photoshop、Illustrator の中でも特に重要な「レイヤー」「パス」「カラー」についての演習項目を増やし、基礎力の強化に重点を置いた。結果として、非常に質の良い課題制作を行う事が出来た。

②授業の進め方について

自分の顔写真（セルフポートレート）を用いた画像加工演習授業を行った。1年次の最初の授業にてスタジオ撮影した自分自身の顔写真を、授業で毎回、Photoshop によって加工していく事により、授業を楽しみながら画像処理の基本的なスキルを身につける。

③アンケート全体を通しての自己評価、及び、今後の授業改善計画について

昨年度の演習課題の約半分程度の課題数とし、重要な部分を繰り返し行う演習内容ではあったが、理解出来る学生とそうでない学生との差が激しく、適時、補講を行う必要があると感じた。

2012年 前期

教員コメント

時間割番号	3162	科目名	映像制作演習
-------	------	-----	--------

①授業計画の達成度について

本演習は2名～4名小のグループによるストップモーションアニメの制作であるが、画像データのトラブルがあったグループを除き、アニメーションを完成させた。

斬新なアイデアを作品に盛り込ませる為、アートアニメーションの名作や過去の学生の優秀作品など作例などを提示し、「アイデア」に重要性を強調した。各グループ絵コンテ作成とチェックの行った。次のステップとして被写体、小道具準備。機材、スタジオの活用の仕方。PCを活用したストップモーションの撮影方法の形で授業を展開した。実際の撮影には8週程要し、編集、BGMに2週程要している。

②授業の進め方について

「この授業は総合的に満足していくものですか」との質問に対して、66.6%の受講生が「やや満足している」との回答であった。また「アニメーションの難しさを知る事ができ、達成感もあって良かった」との記述があった。この記述から長期間によるコマ取りと根気の必要な作業であるが、完成した際の喜びも読み取れ、授業を展開したものとしては、創作に苦勞と完成の喜びを与えられたとではと感じている。一方、撮影の段取り、グループ内でのコミュニケーション不足やスケジュール管理不足で撮影を断念したグループもあった。コミュニケーションの苦手な学生へのアドバイスや援助の方法を見つけ出す必要性がると感じた。

③アンケート全体を通しての自己評価、及び、今後の授業改善計画について

企画・アイデアの段階で手間取り、制作開始が遅れたグループは作品の完成度を上げるのに苦慮する姿が見受けられた。また2コマ連続の制作であり、長期間にわたるコマ撮り撮影のため、集中力が途切れる学生もおり、手中力をどう持続させるかが今後の課題であると感じた。

2012年 前期

教員コメント

時間割番号	3202	科目名	科学の歴史
-------	------	-----	-------

①授業計画の達成度について

シラバスを読んで、科学の歴史学習の意義を考えておくことも予習の一つです。第1回目の授業でこのことについてはフォローしていますが、聞きが浅いようですので、2回目以降もたびたび科学の歴史勉強の意義を復習したいと思います。

②授業の進め方について

科学の歴史では、思想や哲学との接点を持つような抽象的な内容が含まれますが、これらについては授業進捗の都合上説明をややはしめる場合がありますので、興味があれば時間外などに質問に来てくれるともっと詳しいお話ができるのですが。

③アンケート全体を通しての自己評価、及び、今後の授業改善計画について

興味をもって授業に参加していただけるように教材の工夫をしたいと思います。受講者も本を読んだり質問に来るなどの復習の努力をしてください。

2012年 前期

教員コメント

時間割番号	3203	科目名	スポーツ科学論 (健康・体力論)
-------	------	-----	------------------

①授業計画の達成度について

スポーツパフォーマンスや健康のための「体づくり」について、シラバスに基づき基本的理論、具体的実践方法などを解説した。授業ごとにそれ以前の内容との関連性や発展性をくり返し説明したので、系統的な授業展開ができたと考えている。

15回の授業のうち9回授業内レポートを課すことで学生の理解度を確認した。難易度について「難しい」「易しい」がほぼ半々で、半数近く易しいと回答したというのは少し意外であるが、しかし学んでほしい内容の60～70%程度は理解されていると考える。

②授業の進め方について

毎回資料を作成して配布し講義内容を記入させ、さらに授業内レポートで復習する方法は、学生の理解の一助となり、理解度の確認、さらには欠席した場合、その回の資料とレポートを後日提出させることで欠席者へのフォローも可能であった。

設問6, 7, 8, 11, 13, 14については、ほぼ達成できたと考えるが、設問9の授業外自習についてはあまり積極的に求めてはおらず、また設問12では私語への注意をある程度行ったが、それでも十分とは思っていないことが数字に表れている。

③アンケート全体を通しての自己評価、及び、今後の授業改善計画について

声を通ること、指示を徹底させることは、体育教員としての必須の資質と考えている。この理念は維持していきたい。授業に学生とディスカッションを行うような内容も加えて、理解度を深め、また自習意欲を喚起したいと考える。私語については、対策をもっと徹底させていきたい。

2012年 前期

教員コメント

時間割番号	3204	科目名	法の仕組みとビジネス
-------	------	-----	------------

①授業計画の達成度について

法律用語・各種法制度に関する知識を修得することが目的であるから、基本となる条文に対するアプローチは常日頃から厳しく言ってきた。しかし六法を携帯してこない学生が多い。

目標を達成するために、テキストには関連の判例や学説を掲載しているので、事実の概要と判旨を読むだけでもよい勉強になる。裁判においてどのような事実関係のもとでどのような判断が行われたのか、というところに興味を持ってもらえたらそれだけでも大きな前進であると考えている。

②授業の進め方について

講義の声、言葉、説明は明瞭に行っている。受講学生が100名を越え、マイクを使い講義し板書はかなり大きな字を書いていたので、大教室であったがどの席から見やすいものである。

テキストを使用して法律の文言を丁寧に読み書く練習を織り込みやっていた。これらの練習は基本的なことなので途中出来具合を見て回ることもあった。出席学生も多かったが私語はあまりなかった。まれに全体がざわつくこともないではなかったが多くの学生は熱心に授業を聞いていた。

学生の授業に対する取り組みは積極的なほうであったと思う。満足度もそれにスライドして、私の担当する他の授業科目より多く、やや満足しているという解答も含めて約7割の学生が満足していると解答している。

③アンケート全体を通しての自己評価、及び、今後の授業改善計画について

授業に対する意欲があるとする学生が約7割、満足度もほぼ同じ数字である。この解答からは引き続き従来通りでよいとなるのであるが、全然わからないあるいは難しいと解答する学生も多い。この点は改善の余地がある。より多くの学生に理解を深めてもらえる授業にしたい。図表を多用するのも一つの方法であると考えている。

2012年 前期

教員コメント

時間割番号	3211	科目名	財政学 I
-------	------	-----	-------

①授業計画の達成度について

シラバスが役に立ったかという回答では、「かなり役に立った」25.9%、「ある程度役に立った」40.7%ということで、まずまずの結果といえる。

授業の難易度は、「かなり難しい」40.7%、「やや難しい」55.6%ということで、総じて難しいと認識されているようである。この結果についてはある程度予想されたことでもあり、チンプンカンプン分からないということであれば問題となるがその点は後述する。

②授業の進め方について

説明の明瞭さについて、「かなり分かりやすい」22.2%、「やや分かりやすい」63.0%ということで改善の余地があるかもしれない。聞き取りやすさは「聞き取りやすい」42.3%、「やや聞き取りやすい」46.2%ということでまずまずの結果といえる。理解確認もほぼ同様の結果であり、受講マナーもよいという評価が出ている。満足度については「かなり満足」33.3%、「やや満足」48.1%ということで、良好な結果と解釈している。

③アンケート全体を通しての自己評価、及び、今後の授業改善計画について

授業の難易度については、例年難しいという結果が出ている。この点については、受講生が「難易度を適当」と感じる水準に設定することが結果として満足度を上げるのか、「難しい」と感じるがそういった授業を受講することが満足度を上げるのか、両方の考え方が有り得る。私自身は後者を想定しており、それが「大学らしい授業」ということで満足度を上げたいと考えている。

反省点として、私語の多さについて、「やや多い」以上が51.8%で、「多くない」以下が48.1%と拮抗した結果であるが、やや多い以上の人過半数いるということを受け止めて、今後の改善につなげたいと思っている。ただ、私語対策をある程度している以上が、85%を超えていることから、受講生の皆さん自身の受講姿勢という点でも気をつけてもらいたい。

2012年 前期

教員コメント

時間割番号	3212	科目名	スポーツ経営学
-------	------	-----	---------

①授業計画の達成度について

スポーツ経営学の課題の中で基礎的な事柄を教科書とDVD（もしも高校野球のマネージャーがドラッガーの「マネジメント」を読んだら）アニメ版から学び整理するとした。経営学の基礎的課題については、クラブ活動を経営学の基礎理論を当てはめるといふ発想が学生には受け入れやすく興味を持って受講意欲を示したと思われる。1 受講意欲意は3.24と高い評価であった。しかし、ドラマのキーワードと教科書の章課題がうまく順序だてられていないために、教科書を前後しての解説が多くなってしまった。前年度の7割程度のテーマしか解説できなかった。難易度は、ドラマの主人公と同じようにマネジメントを難しく捉えために高いと認識してしまったようだ。ヒト・モノ・カネ・情報を経営者の立場で経営資源と捉えシンプルに考えるよう指導した。

②授業の進め方について

経営学のキーワードを出来るだけスポーツ組織の場面から具体的に考えるよう解説した。わかり易く、具体的に説明し、理解を確認しながら進行した。ほとんど私語をする受講生はなく、意見交流も全員参加して行われていた。授業展開に工夫し、今話題になっているオリンピック誘致その問題その歴史などの議論すべき現代的テーマを多く取り上げ議論した。オリンピックに向けての企業の商品開発競争などテーマ面白く優れたレポートも多くあり学生の満足度は、3.47の評定平均をしました。

③アンケート全体を通しての自己評価、及び、今後の授業改善計画について

5 難易度の適性、6 説明、7 話し方、8 理解の確認、9 時間外の学習、10 教員の熱意・意欲、11 受講マナー、13 私語対策、14 総合満足度などの項目で評定平均3点以上が示され担当として意識していた項目で学生はまじめに答えてくれたと思っています。

教材としてのDVDの利用と教科書の対応をもっと整理し提示したい。もっと多くなおスポーツ経営学の課題を取り上げられるよう工夫したい。

レポート課題の設定でさらに高度な考察の指針を示したい。スポーツ関連企業の研究での考察が甘く、自分の意見や好きな企業の改善すべき点の指摘など更なる考察が出来るよう指導したい。

2012年 前期

教員コメント

時間割番号	3304	科目名	コーチング論
-------	------	-----	--------

①授業計画の達成度について

授業の目的を認識させたうえで、授業計画に従って授業運営を行っている。毎回、プリントを用意し、それに書き込ませている。書き込んだものを試験時に持ち込みにしているのもう少しいい点が取れると思っていたが、そうではなかった。試験の結果を見ると、スポーツ・コーチングの理論についての理解という点には少し不満が残る。

②授業の進め方について

毎時間、プリントを配布し書き込ませた。そのプリントは試験時に持ち込みにしているのも、書き込まないと試験時に困ることになる。授業終了後、すぐに回収し書き込んでいるかチェックしている。私語対策としては、好きなもの同士が集団を作らないように座席指定にしている。その効果は大きく、静かな授業環境が保たれている。座席指定にしていると名前も覚えやすいので、居眠り、私語があったりすると誰であるかの確認が間違いなくでき、名指しで注意ができた。

③アンケート全体を通しての自己評価、及び、今後の授業改善計画について

計画通りに授業運営はできた。学生が望む静穏な授業環境もつくれ、満足感を与えることができた。高評価だったので、継続していきたい。

2012年 前期

教員コメント

時間割番号	3305	科目名	政治の仕組みとビジネス
-------	------	-----	-------------

①授業計画の達成度について

シラバスとの関係については、テキスト自体が15回分の構成になっており、1回ずつ消化していったので、全く問題ないと考える。どういうわけか、否定的な回答が40パーセント近くあったが……。難易度に関しては、肯定的な回答が80パーセント以上もあった。ただ、これもどういうわけか、単位を落とした学生が半数に上ったが。しかしその中には、出席不良者が3分2ほどおり、結局、成績評価は、アンケート回答者が登録者の約3分2であることからして、順当なところであろう。

②授業の進め方について

授業の進め方については、日頃の受講態度からして意外なことに、ずいぶん肯定的な回答であった。しかしその中には、信頼性に欠けるもののがかなり含まれている可能性がある。

③アンケート全体を通しての自己評価、及び、今後の授業改善計画について

昨年度問題にした私語に関しては、威圧・注意・警告・摘発・糾弾など更に徹底することにより、封じ込めにほぼ成功したと思う。あとは、講義の理解度の向上のために、説明の仕方の改善など、引き続き努力していきたい。

2012年 前期

教員コメント

時間割番号	3311	科目名	日本語コミュニケーション I
-------	------	-----	----------------

①授業計画の達成度について

自分の意志を明確に伝え、相手の意志を正確に理解する日本語の運用能力を伸ばすことを目指す授業である。自己紹介とそのための準備、特定のテーマに関するスピーチとその準備など発表の機会とそのための準備をする練習を織り込み、学生の積極的な参加を課題として取り入れた。学習の到達目標及び難易度としては簡単であり、授業におけるストレスは全くないといえる。ただし積極的に授業に参加するという姿勢に欠ける学生が目立ったことは否定できない。

②授業の進め方について

講義の声、言葉、説明は明瞭に行っている。教室が比較的狭かったので、声もマイクなしで隅々まで届き、板書の文字はどの席からも見やすいものである。テキストの練習問題を学生に解答させる方式であるから、理解しているか否かは一目瞭然である。国語辞典を携帯させわからない言葉が出てきた場合には、調べさせることで丁寧に授業を進めた。比較的静かなクラスではあるが、私語がないではなくその都度注意していた。特に気になる程度ではなかった。学生の授業に対する取り組みが積極的ということはできなかったもので、満足度は低いと思っていたが、回答者の半数がやや満足しているということであった。

③アンケート全体を通しての自己評価、及び、今後の授業改善計画について

国語辞典を使うことが多かったのであるが、携帯してくる学生が少なかった。宿題を忘れてくる学生が毎回半数ほどいた。しかし授業中は、テキストの課題に熱心に取り組んでいた。学生の自主性に期待する。

2012年 前期

教員コメント

時間割番号	3314	科目名	マルチメディア表現
-------	------	-----	-----------

①授業計画の達成度について

本授業は Flash の基本的な操作方法をマスターした後、オリジナルのアニメーションを制作ものである。オニキススキン、モーショントゥーンアニメ、スケルトンアニメと多くの技法をマスターする必要があるが、学生は自ら企画したアイデアに適した表現技法を選択し、作品を完成させた。また、GarageBand をマスターし BGM も作曲する。アニメーションと BGM を編集し、総合的に作品を完成させる技術を習得している。アニメーション制作に5週程要し、BGM、編集作業は2週程要している。

②授業の進め方について

「この授業は総合的に満足していくものですか」との質問に対して、14.5%の受講生が「満足している」55.5%の受講生が「やや満足している」との回答であった。トータル70%の学生が満足していた。GarageBan による作曲、映像編集も組み入れたことで、アニメーション制作のすべての工程を盛り込んだことが幸いしたのではと考える。

当初はマスターする項目が多くなる為、不安も感じていたが、GarageBan に作曲は概ね好評であったと察している。やはり、動きと音とトータルで作品を完成させることはオリジナリティーを追求する上で重要なテーマであると再確認した。

③アンケート全体を通しての自己評価、及び、今後の授業改善計画について

企画・アイデアの段階で手間取る学生や、オリジナリティーにこだわり過ぎた為、作品が未完成となる学生もおり、今後はクオリティーとスケジューリングへの配慮が必要であると感じた。

2012年 前期

教員コメント

時間割番号	3371	科目名	映像制作演習
-------	------	-----	--------

①授業計画の達成度について

授業計画はシラバスと初回のガイダンスに詳しく記述することで、ほぼスケジュールに沿って作業を進めている。期日内に作品を提出することになるが、プロセスを大切に、難易度はそれぞれの技量によることが多いなかで、各々が最善の努力をして作品に反映できるように指導している。

②授業の進め方について

授業の初め数回は座学を通して基本的な考え方と技術指導をしている。その後はグループで議論をしてチームで作品作りをしていく。設問6・7・8・9・10・11の回答のように積極的に耳を傾け、理解してくれていると思われる。ただ、創作作業になるため行き詰まることもある。

③アンケート全体を通しての自己評価、及び、今後の授業改善計画について

この授業は演習科目あり、また今期は履修者数が少なく、アンケート内容は必ずしも的確ではない。グループごとに別行動をするなかで、主に個別指導をしていることが多く、まさに少人数教育の状況にある。今期だけではないがリーダーや必要な役割のスタッフが欠席するとグループは立ち往生することになり、グループ活動では最も重要な横の連携と責任感を持てるように指導していきたい。

2012年 前期

教員コメント

時間割番号	3401	科目名	日本の歴史
-------	------	-----	-------

①授業計画の達成度について

設問4についてはある程度役に立ったという回答がほぼ50%、かなり役に立ったという回答を合わせれば4分の3が肯定的な回答を寄せている。その一方で「読まなかった」という回答が15%を占めており、最初の授業でシラバスを読み上げる時間を取ったにもかかわらず、相当程度の学生が「読んだ記憶がない」ことに残念な思いがある。今年は最初の授業でシラバスのコピーも配布したのだが、それでも「読まなかった」ということであろう。読んだ記憶のある学生は9割以上が役に立ったという評価をしているので、まずは読ませるようさらに工夫したい。

設問5については4分の3の学生が難しいと感じていることがやや意外であった。むしろ簡単すぎてクレームが付くのではないかと思っていたぐらいであるからである。簡単な内容を難しく説明するという弊に陥ったかと思ったが、ただ設問6にある説明のわかりやすさについてもほぼ4分の3の学生がわかりやすいと感じているので、やはり内容が難しかったということであろうか。日本の歴史と言うことで範囲が広すぎるという問題があるかもしれないので、来年度からは少し時代を絞って講義を試みようかと考えている。

②授業の進め方について

設問7については80%を超える学生が聞き取りやすいと感じているので、今後もわかりやすい話し方を心がけたい。

設問8については80%を超える学生が理解度を確かめながらすすめていると感じている。これは小テストを行ったり、こまめに学生に話しかける形で授業を進めていった成果であると思われる。しかしその一方で設問9についてはほぼ半数の学生が授業時間外の学修について指導がないと感じている。小テスト等の際に指導したつもりであったが、もっと明確に指示すべきであると反省している。

設問10については85%以上の学生が教員の熱意を感じてくれている。私の唯一の自負が講義に対する熱意のみであるので、これは嬉しい評価であった。設問11についてはきちんと守っているという学生がほぼ半数、ある程度守っているという学生が4割と、教員が当初決めたルールを守ってくれたことに感謝している。しかしその一方で私語については4分の1の学生が私語対策をあまりしていないと感じているので、私語については学生も不満に思っていたようである。100人近い人数でなかなか私語対策に時間をさけなかったが、座席指定をしたおかげで、それほどひどい状態にはならなかった。出席を督促しつつ、授業態度を改善させるというのは非常に難しいと感じている。

設問14については、やや満足という回答が6割を占め、かなり満足しているという回答は4分の1にとどまった。これをどのように評価するかは難しいが、設問5でやや難しいと感じている学生

の割合以上に、やや満足しているという学生が多いということになる。クロス集計されていないのでわからないが、難しいながらもそれなりに満足しているということであろうか。あまり簡単な授業はむしろ満足できないということであろうか。

③アンケート全体を通しての自己評価、及び、今後の授業改善計画について

まず来年度からはテキストを指定して、予習を前提とした授業をしていきたい。授業時間外の学修の促進にもつながると思われるし、授業計画が理解しやすいという利点もあるだろう。来年度の開講に間に合うように出版しようと思う。

なお昨年も書いたが情報量の **WEB** シラバスの導入を本格的に考えるべきだと思う。

昨年問題であった私語についてはアンケートからはそれほど読み取れないが、座席指定の効果は大きかった。その一方でよい意味でも、悪い意味でも自由に座らせてほしいという学生からの要望も多かった。悩ましい点である。

2012年 前期

教員コメント

時間割番号	3408	科目名	基礎数学Ⅱ
-------	------	-----	-------

①授業計画の達成度について

授業の目的は基礎的な数学の力を養うことであり、そのためのインセンティブとして学習到達目的確認としてのテスト、プロセスにテキスト使用の授業と理解し指導してきた。学生たちもテキスト内容をかなり理解でき、積極的に質問したりして達成感を得たと思える。しかし、アンケート後の話になるが、共通テストの内容はやっとテキストレベルが理解でき喜んでいていた学生からすればかなり難易度が高く、やる気を削いだ結果となり、不満がでていたのも事実である。

②授業の進め方について

人数も少なく、質問受けという形で授業を進めていたので、声や言葉、説明においては、かなりの人たちにわかりやすいや聞き取りやすいという支持を得、学生の理解も確認しながら個々人に合わせて進めて行けたので学生からもある程度満足を持ってもらえたと思える。授業環境であるが、学生同士でわからないところを教え合ったりするのも容認していたので、私語が多くなったことも事実であるが、同時に私語対策も行っていただけで結果として学生からある程度満足をしているという評価を得ることができたと思う。

③アンケート全体を通しての自己評価、及び、今後の授業改善計画について

「やや・・・」「ある程度・・・」という評価が多いのはわかるが、学生にとってどこをどう改善すれば満足がいくのかがアンケートから得られないため、今後の授業改善において暗中模索である。

2012年 前期

教員コメント

時間割番号	3409	科目名	商法 I
-------	------	-----	------

①授業計画の達成度について

条文を基本に商法の各種制度を理解させることが目的である。したがって基本は法律の条文である。この点については常日頃から学生に何度も言っている。資料を活用し事実関係とそれに対する法規適用の実際を学修するので、比較的親しみやすい授業方法であると考えている。

わかりやすく説明し大事なところは何回か繰り返し板書しつつ進めるが、法律解釈に関しては難しいと感じる学生が多いようである。やり方に工夫を加え、あらゆる角度から目標を達成させたいと考える。ただし六法を持ってこない学生が多いのは、基本的に受け手の側に改善の余地ありということになる。

②授業の進め方について

講義の声、言葉、説明は明瞭に行っている。声は大きい方なのでマイクなしで隅々まで届き、板書の文字はどの席からも見やすく書いているつもりである。判例解説のとき、細かい字になることがしばしばあり、大事な箇所をチョークで印を付けあるいは線を引いたりすることが多いので、読みにくく感じた学生が多いかもしれない。

資料を配付して小テストを数回行う。これにより学生の理解度を確認することができる。事実の概要等を資料から読み取る練習では多くの学生が、授業の中で理解したこと修得したことを書くのでどの学生もある程度の解答をしていた。

比較的静かなクラスであったが、私語がないではなくその都度注意していた。特に気になる程度ではなかった。

学生の授業に対する取り組みが両極に分化しているようである。熱心な学生は質問に來たりするが、そうでない学生は授業中別のことをしている者もあつたりする。満足度は、あまり高くないと想像していたが、回答者の半数がやや満足しているということであつた。

③アンケート全体を通しての自己評価、及び、今後の授業改善計画について

特に変わったことはなく例年通りである。法律学の学習は積み重ねが大事であるから、基礎的な事がわからないと、判例を読むにしても法制度の説明が十分理解できないことにもなる。しかし授業を理解するために日常的に学修していると解答する学生が25パーセントいる。授業が難しいと解答する学生数が多い反面、それに対処しようとする意欲の現れと解することができ、多くの学生に同様の取り組みを期待するところである。

2012年 前期

教員コメント

時間割番号	4106	科目名	政治原論 I
-------	------	-----	--------

①授業計画の達成度について

シラバスとの関係については、肯定的な回答は半数に止まったが、これは授業の進行がかなり遅くなってしまったためと思われる。しかしその原因は、学生との話し合いで、授業の中に（言わば）第2部、つまり、さまざまな社会科学的テーマについてプリントを配って説明する時間を毎回設けたことにある。難易度については、全員が肯定的な回答であり、適切だったようである。

②授業の進め方について

授業の進め方については、だいたい肯定的な回答であった。ただ、説明の分かりやすさ、理解度の確認、教員の意欲・熱意、満足度という、授業の本質的な部分については、否定的な回答が40パーセントあった。これは、最初から勉学意欲を全く欠いた学生たちがそれに該当すると思われ、繰り返し注意・警告・説教などしたが、直らなかった。

③アンケート全体を通しての自己評価、及び、今後の授業改善計画について

この講義は本年度から担当したので、昨年度からの改善についてはノーコメントである。今年度の反省としては、講義内容全般に関して、学生の要求水準に一般と合わせる必要があることを、改めて感じた。

2012年 前期

教員コメント

時間割番号	4107	科目名	民法 I
-------	------	-----	------

①授業計画の達成度について

授業の目的及び目指すものは講義最初に話してある。概ね授業計画に沿って授業を進めており、話すべき内容は話したと考える。ただ、学習の到達目標および難易度は適切と考えているが、一部で易しいと感じる学生がいる反面、多くの学生が難しいと考えているようである。どのランクに何度設定するか再度検討したいと考える。正直、就任一年目で手探り状態であったため、今回の結果や手ごたえを考慮して次年度以降につなげたいと考える。

②授業の進め方について

授業の説明および聞き取りやすいかという設問には、概ね良いとする回答が多かった。より工夫をして、さらに良くしたいと考える。

学生の理解度を確認しながら授業を進めているかとの設問に対して概ね良いとする回答が多く、また授業時間外以外の学習活動の指導も概ね良いとする回答が多かった。

今後は、小テストを行うなど、理解度を確保する機会を増やすことを考えたいと思う。

授業環境が守られているかという設問に関して、概ね良いとする回答であったので、今後も引き続き注意したいと考える。

授業満足度も概ね良いとの評価であり、さらに良くなるようにしたいと考える。

③アンケート全体を通しての自己評価、及び、今後の授業改善計画について

就任一年目ということもあり、試行錯誤的な面が多かったことは否めない。それにしても全体として概ね良いとの回答が多かったのには救われた思いである。また、熱意を感じてくれる学生が多かったことは良かったが、個別に研究室へ質問に来るなど、学生側の熱意があまり感じられなかったため、この点を改善できたらと考える。

2012年 前期

教員コメント

時間割番号	4114	科目名	コンピュータグラフィック基礎
-------	------	-----	----------------

①授業計画の達成度について

授業計画に忠実に授業を進めているが、シラバスを読まずに履修登録している学生が2割程いるのが気になる。

授業の難易度に対する回答では、かなり難しい 28.6%、やや難しい 50%という回答から、学生にとってやや難しい難易度になっていると考えられる。

②授業の進め方について

先生の説明について大半の学生は分かりやすいとの回答を得た。また、話が聞き取りやすいかについても、大半は聞き取りやすいと思っていることがわかった。学生の理解を確かめながら、授業を進めているかの問いに対しても大半は問題なさそうである。私語については、かなり多いが 21.4%と若干多いが、それに対して私語対策をしているかの問いに対してはある程度していると感じている。

総合的に満足がいく授業かどうかの質問に対しては、かなり満足している 42.9%、やや満足している 42.9%と、多くの学生は満足しているようである。

③アンケート全体を通しての自己評価、及び、今後の授業改善計画について

アンケート結果から、難しい授業と感じている学生が多いが、多くの学生は使ったことのない3DCGのソフトを使用しているので、学生には身体が慣れるまで使いこなすことができるよう授業時間以外の時間を使ってでも操作に慣れてほしい。

私語に対しては unnecessary 私語は注意の対象にしているが、わからないことがある友人に対して教える行為の延長であればある程度は許容している。

満足度に対しては大半の学生が満足しているようなので、このまま気を抜かずに来年度も進めていきたい。

2012年 前期

教員コメント

時間割番号	4115	科目名	映像技術
-------	------	-----	------

①授業計画の達成度について

1時限・2時限は同じ授業でアンケートの回答も似通っているのでまとめて評価する。回答者の少ない1時限は偏りがあるとも見られるが、設問(1)の受講意欲については「かなり」と「まあまあ」を合わせ [1時限 100%、2時限 89.9%] に意欲があり、設問(4)シラバスは [100%、80.9%] が履修に役立ったと答え、設問(5)授業の難易度において [100%、95.5%] がやや難しいと回答している。文系の人にとって技術的な解釈は難しいところもあるが、基本的な知識として理解する努力をしてほしい。

②授業の進め方について

設問(6)授業の説明は「かなり」と「やや」を合わせ [1時限 100%、2時限 77.2%] が分かりやすく、設問(7)話し方は [100%、86.4%] が聞き取りやすいと回答し、設問(8) [100%、90.6%] が学生の理解度を確認しながら授業を進めているとの回答。私語については特定の学生が隣どおしで小声でつぶやいていることがある。聞こえていないつもりでも、静かな中では目立つこともあり、その都度注意をするが別の日にはまた始まる。設問(14)では「かなり」と「やや」を合わせて [100%、91%] が総合的に満足していると回答している。

③アンケート全体を通しての自己評価、及び、今後の授業改善計画について

試験の結果は以前に比べよくなってきているが、授業を難しいと答える学生が多くなってきている。専門用語や難解な事柄が多い科目であり、詳しくすぎても簡単すぎても理解に苦しむことになる。その中で反復して説明し、できる限り理解できるところまでの表現を探っている。あとは自ら興味をもち、実体験でそのつど理解を深めてもらいたい。

2012年 前期

教員コメント

時間割番号	4151	科目名	情報セキュリティ
-------	------	-----	----------

①授業計画の達成度について

当該科目は3年次開講科目でより一段と内容が高度になること、当該教員のこれまでの印象も加味されることもあり当該科目の履修が敬遠されている傾向があるように見受けられる。その結果、設問4において回答者のほぼ半数がシラバスを履修登録に役立てていない結果である。また、設問5において回答者ほぼ全員が難しいという結果である。

今後の課題としては、「当該科目は1,2年次生にて履修した専門科目が基礎となっていること」を理解させられるようシラバスへの工夫が必要といえよう。但し、社会等の要求を加味すると当該科目の到達目標および難易度の変更は困難であることを申し添える。

②授業の進め方について

講義の進め方等はアンケート結果から見ても一定の理解を得られているように見受けられる。今年度から全講義対象として出席回数に関する規定が設けられたこともあり、各講義時間の最後に演習問題を配布/回収する仕組みを導入した。受講生の理解度を確認できるようになったのはよいが、演習問題の位置づけが曖昧であったようで、学生自らの理解度には結びついていない。演習問題の位置づけについては今後の課題としたい。

講義環境の維持、主に私語対策についてはこれまでの方法(独自のルールにおける講義態度点の減点制度を設けていること)を踏襲していることもあって私語は少ないとの評価だった。正直な話、高等教育において私語対策をせねばならない状況が辛い。少なくとも、当該講義だけでも独自ルールで厳しく実施していきたい。

③アンケート全体を通しての自己評価、及び、今後の授業改善計画について

アンケート全体の結果から小生自身は概ね予定どおりの結果が得られたと判断している。昨年度?の改善内容において、小生が示した「学生が講義に参加するような状況を作る」ことの第一弾であった文章を書かせることについては実現できた。一方で、学生自身の意見を述べる講義を展開できる状態になっていないので、今後の課題としたい。

今年度より他学部開講科目として設定されたこともあり、これまでの講義内容を踏襲することの限界も生じている。先に述べたように、社会等の要求を加味すると講義内容の変更は難しいので、当該講義を受講するうえでの補助資料を提供する、レポート課題を実施するなど、講義方法で充実させたい。

2012年 前期

教員コメント

時間割番号	4201	科目名	日本語コミュニケーション I
-------	------	-----	----------------

①授業計画の達成度について

日本語コミュニケーション I は、まずもって日本語を表記する文字、例えば漢字や慣用句、ことわざなどを適切に使えること、第二に、語彙や文章の構造を説明すること、敬語表現を使えるようになることを目標とすることを第 1 回目で説明した。しかし、受講生の反応を見ながら講義を進めてきたため、計画の 3 分の 2 程度をこなすのが精一杯であった。というのも、受講生の多くは辞書あるいは辞典を使用した経験が乏しいため十分に使いこなせず、使い方を説明するところから始まったためである。辞書等を使う、使いこなすことも目標として必要であったと感じた。

②授業の進め方について

小教室であるので、声は十分に通っていたと思う。その結果がアンケートにも反映していたといえる。
毎回の講義ですべての受講生を二回乃至三回指名し、質問に答えさせて理解度を確認した。特に辞書や辞典を使えるよう何度も調べさせ、関連する語彙を調べさせるなど、体をつかった学びを実践した。しかし、先にも指摘したが、辞書を使う習慣がないため、辞書の使い方を教授することが少なくなかった。しかし、このような丁寧な講義を心掛けた結果、「満足」「やや満足」が多数を占めたと思う。

③アンケート全体を通しての自己評価、及び、今後の授業改善計画について

前述の通り、アンケートでは「やや満足」が多かったのは、丁寧な講義を心掛けたためであろう。ただ、そうとはいえ講義中の私語は少なくなかったことから、何か魅力に欠けていたことは否めない。とりわけ、学ぶ意欲が低い受講生が周囲を私語に引き込むことがあり、そういった学生も講義に興味を持てるよう、テキスト以外の教材も使用する必要があると感じる。今後はゲーム感覚で学ぶなどの工夫を考えたい。

2012年 前期

教員コメント

時間割番号	4202	科目名	日本語コミュニケーション I
-------	------	-----	----------------

①授業計画の達成度について

授業の目的を認識したうえで、授業計画に従って授業運営はできた。最初は、授業内容を十分に理解して問題を解ける者と、解けない、書けないという者の差があきらかであった。できない者はもう少し努力が必要であるが、回を重ねるごとにその差は少しずつ縮まった。

②授業の進め方について

毎回、まず、各クラス共通の漢字小テストを行う。答え合わせを終えて、テキストの内容に従って授業をすすめた。まじめに取り組んではいたが、理解度に差があった。また、欠席の多い者もあり、授業の目的を理解させたいので、後期にはしっかりと出席させたい。

③アンケート全体を通しての自己評価、及び、今後の授業改善計画について

話し言葉を中心とした授業であり、活発に答えてくれていた。すこし余計な話に及びがちなので、そこを注意していた。授業内容は少し難しいものもあるが、高校生までに学習してきたものなので復習感覚でできている。後期に向けては、理解できない少人数の者を学習支援センターと協力して理解度を高めていくことが課題である。

2012年 前期

教員コメント

時間割番号	4209	科目名	経営管理論 I
-------	------	-----	---------

①授業計画の達成度について

最初はシラバスに沿って授業を行っていたが、半分ぐらいのところ（7回目、中間アンケート）で、実は授業の半分以上を理解できていない、集中力は1時間持たないことが判明した。そのため、8回以降は1単元を2つに分けて進めることになった。そういう視点からでは、授業計画に従って運営は行えていない。そのせいか、あるいはその結果か、難易度は難しい方に偏っている。

②授業の進め方について

声や言葉、説明においては、かなりの人たちにわかりやすいや聞き取りやすいという支持を得ることができ、満足している。

また、学生の理解を確認しながら進めているかという点において、自分では小テストや授業に前回の復習など行うことが確認とみなしていたが、学生もそうした意向をきちんと理解してくれており、うれしく思う。

授業環境であるが、私語が多い者を退室させていたが、かなり反感を買ったようだ。しかしながら、授業への積極的参加を希望している学生のことを考えたり、彼らからの私語対策をしている、ある程度授業に満足しているというアンケートの結果から今後もきちんとした姿勢で対処していこうと思う。ただし、別の私語対策方法も考える必要があると策を練っているところである。

③アンケート全体を通しての自己評価、及び、今後の授業改善計画について

「やや・・・」「ある程度・・・」という評価が多いのはわかるが、学生にとってどこをどう改善すれば満足がいくのかがアンケートから得られないため、今後の授業改善において暗中模索である。

2012年 前期

教員コメント

時間割番号	4253	科目名	教育相談の理論と方法
-------	------	-----	------------

①授業計画の達成度について

- ・概ね、シラバスに沿って、授業を進めた。この授業は、グループワークを取り入れた授業展開を、数回の授業に1回挟んで行った。この意味では、計画通りに実行することができた。
- ・学習の到達目標は、当初予定していた水準には達しなかったと思われる。前回の内容を小テストで確認しようとしたが、及第に達しないことが多かった。自分で授業内容を復習することが難しかったようだ。

②授業の進め方について

- ・在籍9名であるが（いつも参加は5名以内、）での授業であるので、ほとんど対面で学生の表情を感じながら行ったので、意図は充分に通じているはずである。
- ・学生の授業満足度は、どの程度のものであったか、悩むところである。

③アンケート全体を通しての自己評価、及び、今後の授業改善計画について

- ・要求する水準に対して、満足できるものではなかった。今後は、毎回の授業初めに、授業の「今日の予定」を明らかにするよう心がける。具体的には、以下のように展開。
 1. パワーポイントや、資料を使って、本時の内容を20~30分で講義。
 2. 資料を読ませる。(10分)
 3. 大切なポイントを3点でまとめる。(10分)
 4. グループワーク等を取り入れる。(15分)
 5. グループ発表を行う。(15分)

2012年 前期

教員コメント

時間割番号	4308	科目名	経営史 I ・ 経営史
-------	------	-----	-------------

①授業計画の達成度について

(1) 授業目標・学習の到達目標や授業計画などをシラバスにも明記したが、19%の人にとって実際の授業には役立たなかった。(2) 授業は歴史科目ということで各回毎にテーマを明記しなかったため内容が不明瞭となり、これによりで内容が難しいと思う人が 80.5%になったかのではないかとと思われる。

以上を総合すれば、今後、シラバスの内容は受講生が十分に理解できるように工夫して作成したい。

②授業の進め方について

(1) 説明の仕方では、19%の人が分かりにくい、(2) 話し方の明瞭さでは、19.1%の人が聞き取りにくい、(3) 受講生の理解度の確認では、17.1%の人が確認がなされていない。(4) 授業以外の学習活動では 30.9%の人が私からの指導がない。とそれぞれ感じている。特に、(5) 私語のあることは受講生全員が認めており、私の対応が出来ていないので、厳しく対処して欲しいとの指摘もなされた。

以上、私の不注意のために実施出来なかった部分を含め、(1) ～ (5) に関しては大いに反省し、特に私語対策についてはさらに工夫をしなければならない。

③アンケート全体を通しての自己評価、及び、今後の授業改善計画について

私の授業は口述筆記と板書で行うので、ノートを取るのが当然と思うが、57.1%もの人がそうしていないことが気に掛かる。授業へは 14.7%の人が満足していないことは、意欲のない人が 11.9%いることから分かるが、それ以外でも満足していない人がいることには注意しなければならない。

今後は、より注意を払って受講生が納得できそうなシラバスを作成し、授業では、必要なことだけを伝えるようにしたい。

2012年 前期

教員コメント

時間割番号	4314	科目名	基礎英語 I
-------	------	-----	--------

①授業計画の達成度について

授業はシラバスに従って順調に進んでいる。難易度については、これ以上かみくだくのは難しいと思えるほど基礎的なレベルだが、なお「難しい」と感じる学生がいる。しかし、全般的には評定平均 2.85 と、ほぼ妥当な難易度といえるだろう。

②授業の進め方について

きわめて初歩的な文法項目を徹底的に反復練習する E ラーニングの授業なので、単調さに飽きたり、膨大な量に苦痛を感じたりする学生もいるようである。解説や復習テストの時間を設け、変化をつけながら理解度を確認するよう努めている。満足度は 3.089 と、まずまずの評価を得られている。

③アンケート全体を通しての自己評価、及び、今後の授業改善計画について

解説の時間に集中させる方策が必要である。PC の目的外使用にふけったり、寝ている者は論外としても、指示を待たずに E ラーニング学習を始めている者も多く、結局、学習の効率が悪くなっている。それ以外の面では特に問題は見られない。

2012年 前期

教員コメント

時間割番号	4401	科目名	基礎英語 I
-------	------	-----	--------

①授業計画の達成度について

授業はシラバスに従って順調に進んでいる。難易度については、これ以上かみくだくのは難しいと思えるほど基礎的なレベルだが、なお「難しい」と感じる学生がいる。このクラスは出席率がやや悪く、それもあって授業についていけない学生がいるようである。

②授業の進め方について

きわめて初歩的な文法項目を徹底的に反復練習する E ラーニングの授業なので、単調さに飽きたり、膨大な量に苦痛を感じたりする学生もいるようである。解説や復習テストの時間を設け、変化をつけながら理解度を確認するよう努めている。満足度は 3.40 と、かなり良い評価を得られている。

③アンケート全体を通しての自己評価、及び、今後の授業改善計画について

解説の時間に集中させる方策が必要である。PC の目的外使用にふけったり、寝ている者は論外としても、指示を待たずに E ラーニング学習を始めている者も多く、結局、学習の効率が悪くなっている。それ以外の面では特に問題は見られない。

2012年 前期

教員コメント

時間割番号	4404	科目名	税制から見る日本経済
-------	------	-----	------------

①授業計画の達成度について

シラバスが役に立ったかという回答では、「かなり役に立った」34.6%、「ある程度役に立った」57.7%ということで、まずまずの結果といえる。
授業の難易度は、「かなり難しい」26.9%、「やや難しい」53.8%ということで、若干難しいと認識されているようである。この結果についてはある程度予想されたことでもあり、チンプンカンプン分からないということであれば問題となるがその点は後述する。

②授業の進め方について

説明の明瞭さについて、「かなり分かりやすい」19.2%、「やや分かりやすい」69.2%ということで改善の余地があるかもしれない。聞き取りやすさは「聞き取りやすい」30.8%、「やや聞き取りやすい」57.7%ということでまずまずの結果といえる。理解確認もほぼ同様の結果であり、受講マネーもよいという評価が出ている。満足度については「かなり満足」29.2%、「やや満足」66.7%ということで、良好な結果と解釈している。

③アンケート全体を通しての自己評価、及び、今後の授業改善計画について

授業の難易度については、やや難しいという結果が出ている。1年次配当科目ということで、難易度については気をつけていたが、授業の性格上、難しく感じる点は痛感している。満足度についてはまずまず高い数字だと感じており、安心はしている。

反省点として、私語の多さについて、「やや多い」以上が50%を超えており、今後の改善につなげたいと思っている。ただ、私語対策をある程度している以上が、85%を超えていることから、受講生の皆さん自身の受講姿勢という点でも気をつけてもらいたい。

2012年 前期

教員コメント

時間割番号	4409	科目名	基礎数学Ⅱ
-------	------	-----	-------

①授業計画の達成度について

シラバスに関しては、担当者共通のものであり、授業方法も各担当者のやり方に任せられているので、あまり参考にはならなかったかもしれない。

難易度は基本的に数学の難易度が反映されるため、個人により感じ方は様々とならざるを得ない。

設定した達成度に達した学生は少数であり、試験の結果が如実にそれを物語っている。授業意欲は概ね良いのだが、授業時間は限られており、どうしても個人的な予習復習が欠かせないにもかかわらず、あまり予習復習をしていない状況である。この点を改善すればより達成度に到達できる学生が増えるように思われる。

②授業の進め方について

授業の説明、聞き取りやすさ、理解度の確認、授業時間外の学習活動の指導が概ね良いとの回答が多く、授業環境についても概ね良いとの判断できるように思われる。また、授業満足度も概ね良いとの回答が多かった点は良かったように思う。

③アンケート全体を通しての自己評価、及び、今後の授業改善計画について

概して授業内容は良いとの回答であったように思われる。就任一年目で試行錯誤をしながらの授業としては良かったのではないかと考える。今後はやり方などをさらに改善してより理解しやすい授業にしたいと考える。

ただ、試験結果からするとより厳しい態度で授業に臨まなければならないように感じられる。

2012年 前期

教員コメント

時間割番号	4410	科目名	基礎数学Ⅱ
-------	------	-----	-------

①授業計画の達成度について

「この授業の難易度は適当ですか。」との設問に対し、「かなり難しい」が5名中2名、「やや難しい」が同2名となっており、実際、期末試験において、受講学生19名（「ベーシック数理Ⅱ」1名を含む）中2名しか合格しませんでした。

しかしながら、「基礎数学Ⅱ」は中学校の数学に該当するものであり、たとえ何学期かかろうと、社会に出る前には是非とも身につけてもらわなくてはなりません。

②授業の進め方について

アンケートの回答者数が少ないのであまり参考にはならない気もしますが、「この授業は総合的に見て満足のいくものですか。」との設問に対し、「かなり満足している」が5名中3名、「やや満足している」が同1名と、授業の進め方自体に大きな問題点はないものと理解しております。また、合格者こそ少なかったものの、数学の学力そのものは少しずつであれ身につけてきているものと思われれます。

③アンケート全体を通しての自己評価、及び、今後の授業改善計画について

この授業は統一シラバスに基づき複数の授業担当者が分担しているものであり、個々の授業担当者の裁量は極めて限られています。

その上で、私の個人的見解を述べるならば、今回の「基礎数学Ⅱ」の受講生の多くは「基礎数学Ⅰ」を合格するのに2学期かかっているところ、「基礎数学Ⅱ」の合格にも同程度の時間がかかってもある意味当然と思われる。むしろ、中学校3年間で身につけるべき内容を半年間で身につけさせる方が無理があると言えます。

よって、学期ごとの合格・不合格に一喜一憂することなく、数学に関する学習習慣の確立を最重点に、少しずつでも数学の学力の伸長を図っていければと思います。

2012年 前期

教員コメント

時間割番号	4412	科目名	ITスキルアップ I
-------	------	-----	------------

①授業計画の達成度について

資格試験合格を授業目標のひとつに掲げる講座であり、学生の持つスキルレベルに合わせて、個別に課題を与えるという手法をとっていたため、必ずしもシラバスで示した授業計画どおりに進行させることはできなかった。また、授業を難しいと感じる学生も多いことから、見直しが必要だと思われる。

②授業の進め方について

受講生が少数ということもあり、それぞれのペースで課題に取り組んでもらう演習形式で授業を行った。それぞれが躓いている箇所に対して個別に対応するという方法で臨んだことが功を奏したのか、授業の進め方については概ね良好な反応であり、今後もこれを継続していきたいと考えている。なお、私語対策については評価が分かれており、この点は改善が必要だと考える。

③アンケート全体を通しての自己評価、及び、今後の授業改善計画について

授業スタイルについては、これを継続させていくものとして、授業目標は検討の余地があると考え。今少しレベルの低いところから段階を踏んで進めていくなどの工夫が必要だと思われる。教材の見直しや、テキスト以外の参考書をより多く提示するなどの工夫を行っていく予定である。

2012年 前期

教員コメント

時間割番号	4457	科目名	XML・WEBサービス演習
-------	------	-----	---------------

①授業計画の達成度について

シラバスは、かなり役立った(36%)、ある程度役立った(40%)という結果であるが、授業計画としては、ほぼ、予定どおり進行して終えている。

かなり高度な内容も含むため、わかりやすいプリントを毎回配布して、進めてきたが、それでも、難易度としては、かなり難しい(24%)、やや難しい(72%)という結果となった。

コンピュータ技術と論理思考の両方が要求される実習なので、この結果は、ある程度はやむを得ないと考える。

結果的には、ほとんど学生が合格しており、難しいながらも、マン・ツー・マンでの指導もしながら、一人でも多く合格ラインに引き上げようと努力した結果は、ある程度、達成した。

②授業の進め方について

留学生が多いことにより、例年以上に、わかりやすい言葉づかい、高い明瞭度で話したつもりであり、理解度の確認の問いかけも頻繁に行った。

私語については、実習なので、お互いに相談しながらやっているので話し声が聞こえるが、それが全体の授業を妨げている状況ではないので、問題なしと判断している。

総じて授業運営については、順調に進められたと考える。

満足度の設問に対して、かなり満足している(22.7%)、満足している(59.1%)であり、82%の学生が満足度を感じている

③アンケート全体を通しての自己評価、及び、今後の授業改善計画について

最大の問題は、積み上げ形式の実習なので、休まれると、その時の内容を自習しておかないと、次の授業についていけない、という悪循環が起りがちであり、それをうまく救う手立てを打ち切れずに終わったことが反省点である。

休んだ時のフォローを、最初からもっと徹底的に指導すべきであったと思う。そのために必要な情報提供の仕組みも講じていきたいと考える。

2012年 前期

教員コメント

時間割番号	4458	科目名	色彩演習
-------	------	-----	------

①授業計画の達成度について

第1週目、授業オリエンテーションにシラバスの内容を説明している。概ね、役に立ったと回答してくれている。しかしながら、この色彩演習の授業は、学生の作品制作の進み方が個々違う。そのため、授業計画に必ずしも計画どおりに進めません。シラバスに記載されたように、この授業は個人指導であるからです。この授業に関しましては、達成度は概ね、良好と考えている。

②授業の進め方について

声や言葉、説明は概ね分かりやすい、聞き取りやすいとの回答である。個人指導のため、学生とコミュニケーションを取りながら進めている。この授業では、少人数であり、個人個人、よくコミュニケーションが取れ、作品の完成度が高かった。コミュニケーション型の授業ですから理解度を確認しながら、作品の進み具合を見ながら進めている。この授業の学生の満足度は概ね、良好ですが、今後もより満足度を高める努力が必要である。

③アンケート全体を通しての自己評価、及び、今後の授業改善計画について

学生との対話形式の授業であるが、対話が出来ない学生がいる。このような学生といかに対話をし、作品制作を理解してもらうかが今後の課題である。色彩演習（色彩デッサン）という以前に、絵が苦手という学生が目立つ。絵を描くことを、放棄した学生をいかに作品制作をしてくれるかが大きな問題で、課題である。より解りやすい授業にしたい。

2012年 前期

教員コメント

時間割番号	5114	科目名	映像作品概論
-------	------	-----	--------

①授業計画の達成度について

出席者（この場合は回答者）が科目登録者の70%であり、登録していても欠席していた学生が多いのが実情。また、出席者でも、この授業の対象とする映像作品への興味、関心、知識等に学生間での差が大きかったようにも思える。基本的にはシラバスにのっとり進め、変更のあるときにはその旨説明し、また、次週については何につてするかを伝えた。講義形式の授業であっただけに、そういった多様な学生への対応はなかなか難しいところがあったことも事実。

②授業の進め方について

講義形式の授業。基本的に、部分的ではあるが、毎回映像作品を視聴するようにした。意味や意図があつてそれらの作品を見せたわけだが、すべてが学生たちの関心があるものではない（彼らのリアクションでよくわかる）。ただ、映像を見るのが、時間や授業の展開から部分的にとどまったためと、限られた授業時間であったため、それらについての説明はしたが、学生たちの意見を聞いたりする時間があまり持てなかったのは残念であった。
もともと、学生たちからの質問等もあまりなかったことも少々さびしい

③アンケート全体を通しての自己評価、及び、今後の授業改善計画について

多様な学生がいるだけに、そして新知識を教えたり正解を導き出したりする科目ではないだけに、少しでも学生の中に、授業から何か啓発され、視野を広げ、自己を大きくしてくれる一助になればと思っている。そういった意味も含め、できるだけ学生たちとの質疑応答などをし、考えたり、疑問を質したりする場を広げたいと思う。

2012年 前期

教員コメント

時間割番号	5123	科目名	情報数学I
-------	------	-----	-------

①授業計画の達成度について

回答者の7割強のがシラバスはある程度以上に役に立ったと答えていることから、科目の達成目標はある程度受講生に伝わっていると思われる。

旧カリキュラムでは1年次配当科目だった情報数学Iを新カリキュラムでは1年次に基礎数学を修了した学生が受ける科目として位置づけたため、内容が若干高度になった。受講生の中には基礎数学IやIIが未修得の者も相当数いたため、内容が難しいと考える受講生の割合が多くなっていると思われる。

②授業の進め方について

一方通行の講義とするのではなく、受講生への問いかけを増やし、授業への積極的な参加を促そうとした。成績にも影響すると断って実行したが、積極的に答えてくれた受講生は三分の一程度であった。

セットの演習科目があるので、計算問題などは例題程度にとどめ、概念理解を中心にした。グラフなどを豊富に示すため、数学用のソフトを利用した。

③アンケート全体を通しての自己評価、及び、今後の授業改善計画について

対話型（に近い）授業方法というのは今回初めて行ったので、こちらとしてもうまく受講生の積極性を引き出せなかったようだ。こういった授業の場合、予習・復習も重要になるのでこのことをもっと強調していきたい。授業の難易度の調整には基礎数学IIとの接続も含めて考えていく。

発声や板書、私語対策なども今後も向上するよう努力していく。

2012年 前期

教員コメント

時間割番号	5201	科目名	ITリテラシー I
-------	------	-----	-----------

①授業計画の達成度について

「この授業の難易度は適当ですか。」との設問に対し、「かなり難しい」が14名中6名、「やや難しい」が同6名となっていますが、この授業は入学直後のプレースメントテスト（アンケート）に基づいてクラス分けがなされているところ、私のクラスは習熟度（の自己評価）が最も低い学生によって構成されており、ある意味やむを得ない結果であるものと思われま

②授業の進め方について

アンケートの結果によると、私語対策を行ってはいるものの結果として私語が多いことを除けば、授業の進め方についてはおおむね問題がないものと理解しています。

特に、個々の学生に対し、提出した課題を個別に添削して返却した上で、これまでの授業における達成状況を明示したことは、単位修得に向けて学生の励みになったであろうと自負しているところ

③アンケート全体を通しての自己評価、及び、今後の授業改善計画について

プレースメントテスト（アンケート）に基づき最も習熟度（の自己評価）が低いクラスであるにもかかわらず、受講学生20名中12名が合格したことは、むしろ上出来ではないかと私は思っております。「ITリテラシー I」では主にMicrosoft Wordを学びますが、今後のあらゆる授業科目及び社会生活において必須となるスキルである以上、それが身につけていない学生には再履修の機会を与えることこそが教育的配慮であると考えられます。

その上で、少しでも多くの学生を合格させられるよう、まずは学習習慣の確立に力を入れていきたいと思